

令和5年度
山口県子どもたちの生活実態調査報告書
【概要版】

令和6年3月
山口県

目次

1 調査の対象や調査方法などP1
2 子どもの親の婚姻状況P3
3 経済的な状況や暮らしの状況P4
4 子どもの学習状況P10
5 部活動等への参加状況P13
6 子どもの日常的な生活状況P15
7 子どもの親の就労状況P17
8 保育の状況P18
9 子どもとの関わり方P19
10 相談相手P21
11 生活の満足度P24
12 心理的な状態P27
13 進学P29
14 支援制度の利用状況P33
15 令和元年度調査時との比較P38

1. 調査の対象や調査方法など

1. 調査の目的

本調査は、令和6年度に計画の策定を行う「山口県子ども計画」に向けて、山口県の貧困対策における効果的な支援のあり方を検討するための基礎資料とするため、県全体の子どもの生活実態や学習環境等の調査を行い、貧困世帯の状況を把握することを目的とする。

2. 調査対象及び調査方法

(1) 調査対象学年及び人数

- ・ 県内公立小学校に通う小学5年生とその保護者（約2,000世帯）
- ・ 県内公立中学校に通う中学2年生とその保護者（約2,000世帯）

の合計 約4,000世帯（子ども 約4,000名、保護者4,000名）を対象とし、実施した。

(2) 調査方法

対象者の選定においては、小学生（6～11歳）、中学生・高校生（12歳～17歳）の各市町の人口を算出した上、各市町の小学生、中学生・高校生の割合に応じて、対象となる小学生2,000世帯、中学生2,000世帯の割付を行い、各市町の対象者数を設定した。

設定された対象者数を満たすように各市町で対象校の抽出を行った上、対象校の小学5年生もしくは中学2年生の1組（小学生：5年1組、中学生：2年1組）の子ども及び保護者を対象とした。

調査実施時においては、対象とした小学校、中学校へ紙の調査票を送付し、学校から対象組の児童生徒へ調査票を配布し、児童生徒、保護者が回答した調査票を各学校にて回収する方法を用いて実施した。

1. 調査の対象や調査方法など

(3) 調査期間

令和5年11月27日～令和5年12月21日

(4) 回収結果

	1)対象 児童生徒数	2)配布数	3)回収数	4)有効 回答数	5)回答率 (=4)÷2) ×100)
小学5年生	2,158人	2,126人	1,980人	1,977人	93.0%
中学2年生	2,125人	2,016人	1,862人	1,859人	92.2%
合計	4,283人	4,142人	3,842人	3,836人	92.6%

2.子どもの親の婚姻状況

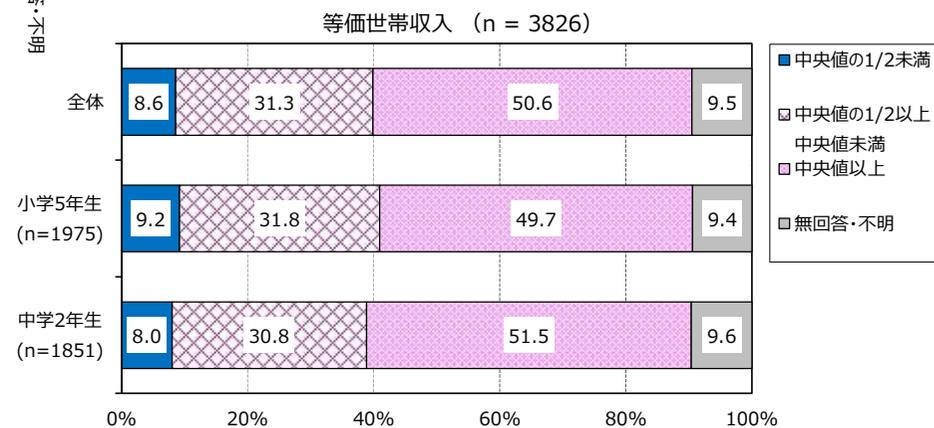
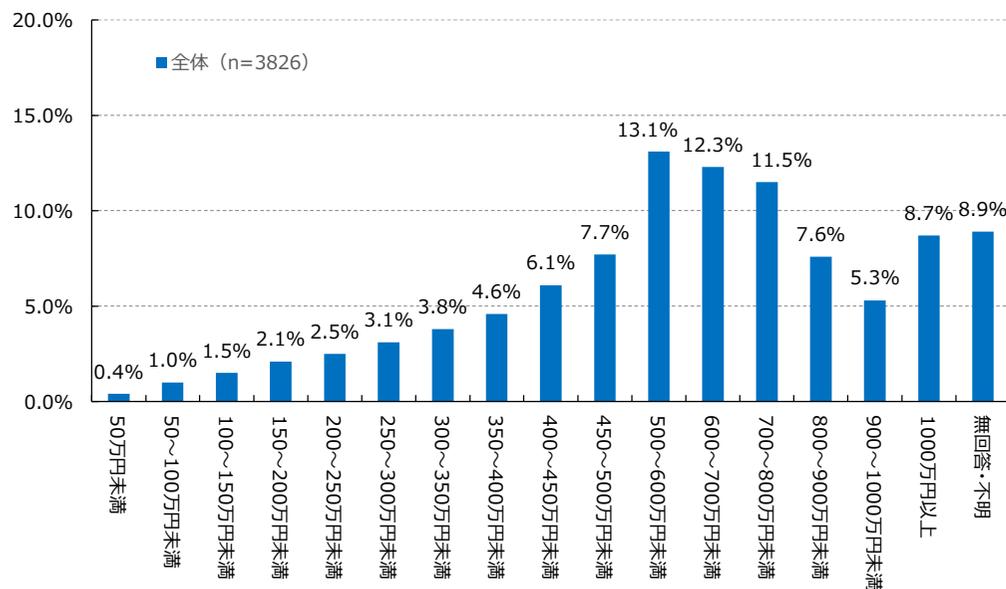
- ◆ 「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が85.6%、「離婚」が10.9%、「死別」が0.9%、「未婚」が0.8%となった。
このうち「離婚」、「死別」、「未婚」を合わせた値を「ひとり親世帯」とし、この割合は12.7%であった。

上段:人(n)、下段:%

	合計	結婚している (再婚や事実 婚を含む。)	離婚	死別	未婚	わからない	いない	無回答 ・不明
全体	3826 100.0	3275 85.6	418 10.9	35 0.9	31 0.8	0 0.0	29 0.7	37 1.0
小学5年生	1975 100.0	1700 86.1	210 10.6	17 0.9	21 1.1	0 0.0	13 0.7	14 0.7
中学2年生	1851 100.0	1575 85.1	208 11.2	18 1.0	10 0.5	0 0.0	16 0.8	24 1.3

3. 経済的な状況や暮らしの状況(世帯の年間収入)

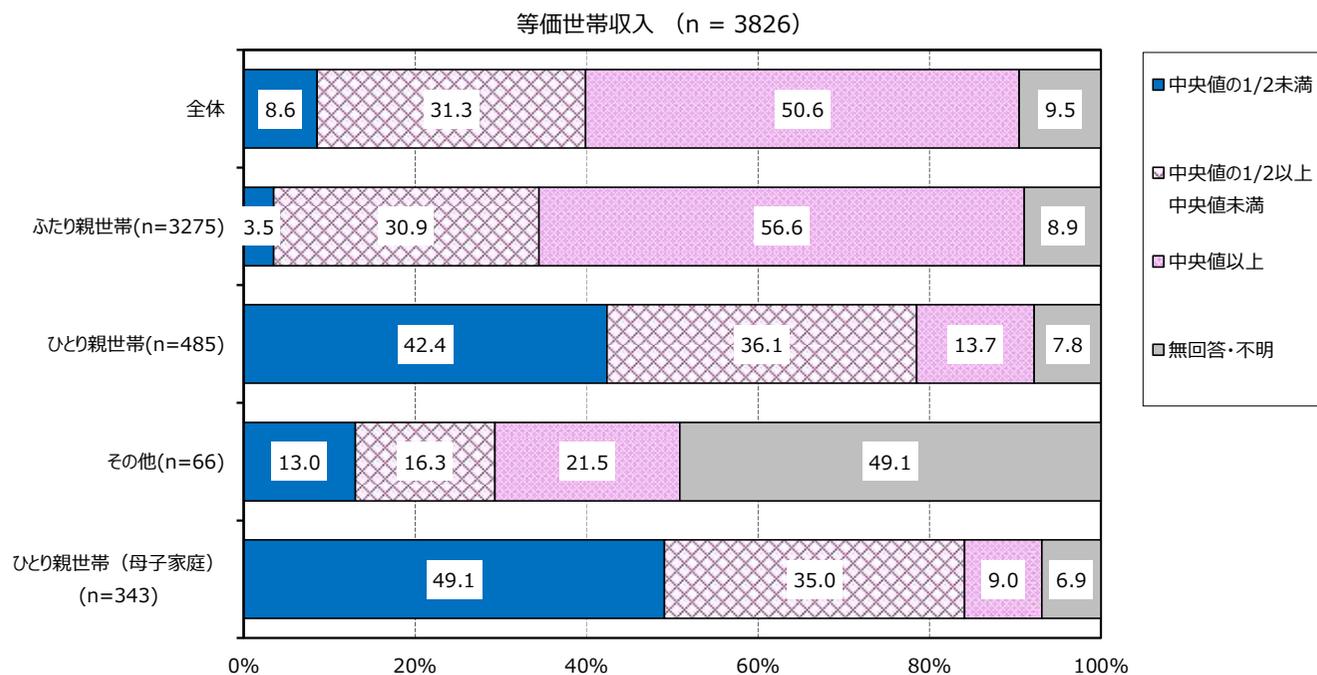
- ◆ 全体では「500～600万円未満」が13.1%で最も割合が多くなった。
- ◆ 得られた年間収入の結果を基に等価世帯収入を算出した結果、**等価世帯収入の中央値は2,750,000円、中央値の1/2の値は1,375,000円となった。**この金額を基に「中央値の1/2未満」、「中央値の1/2以上中央値未満」、「中央値以上」の3つの区分に分け、各設問において分析を行った。



3. 経済的な状況や暮らしの状況(世帯の年間収入)

◆ 世帯の状況別に等価世帯収入の分類を行った所、「中央値の1/2未満」の割合は、「ひとり親世帯」で42.4%となった。さらに、「中央値未満」の割合は「ひとり親世帯」で78.5%となった。

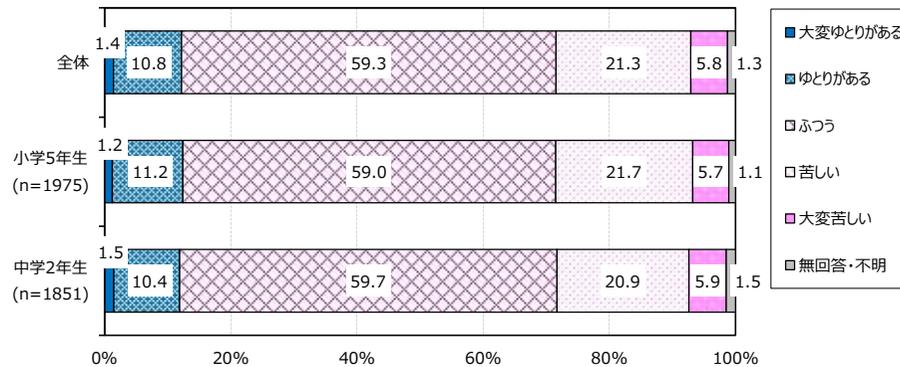
「ひとり親世帯」のうち、母子家庭では「中央値の1/2未満」の割合は49.1%、「中央値未満」の割合は84.1%となっており、「ふたり親世帯」よりも「ひとり親世帯」、「ひとり親世帯」の中でも、特に母子家庭で生活が苦しい状況が見受けられた。



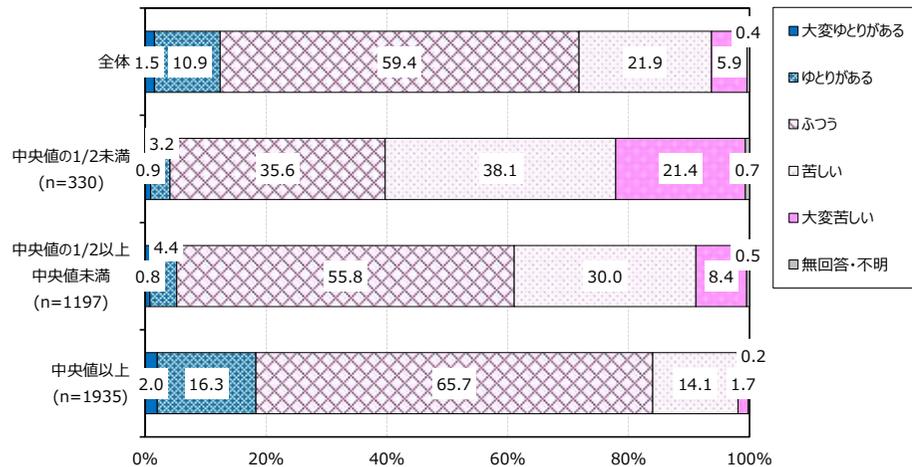
3. 経済的な状況や暮らしの状況(暮らしの状況)

- ◆ 「「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合が全体では27.1%、小学5年生では27.4%、中学2年生では26.8%となった。
- ◆ 等価世帯収入で分類した結果では、「「中央値以上」と「中央値の1/2未満」では「「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合が約3.8倍の差となった。世帯の状況別の結果では、「「ひとり親世帯」と「ふたり親世帯」で「「苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合に約2倍の差がみられ、「ひとり親世帯」の生活が「ふたり親世帯」に比べ、苦しい状況にあることがわかった。

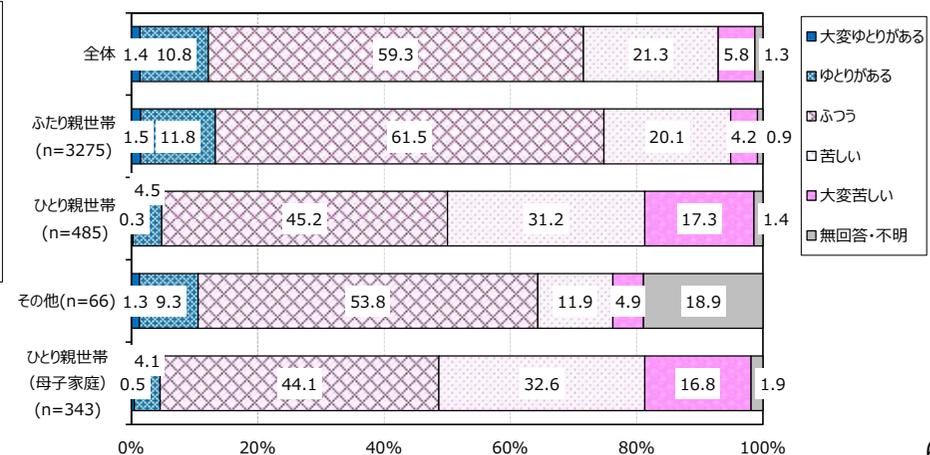
現在の暮らしの状況 (n = 3826)



現在の暮らしの状況 (n = 3462)

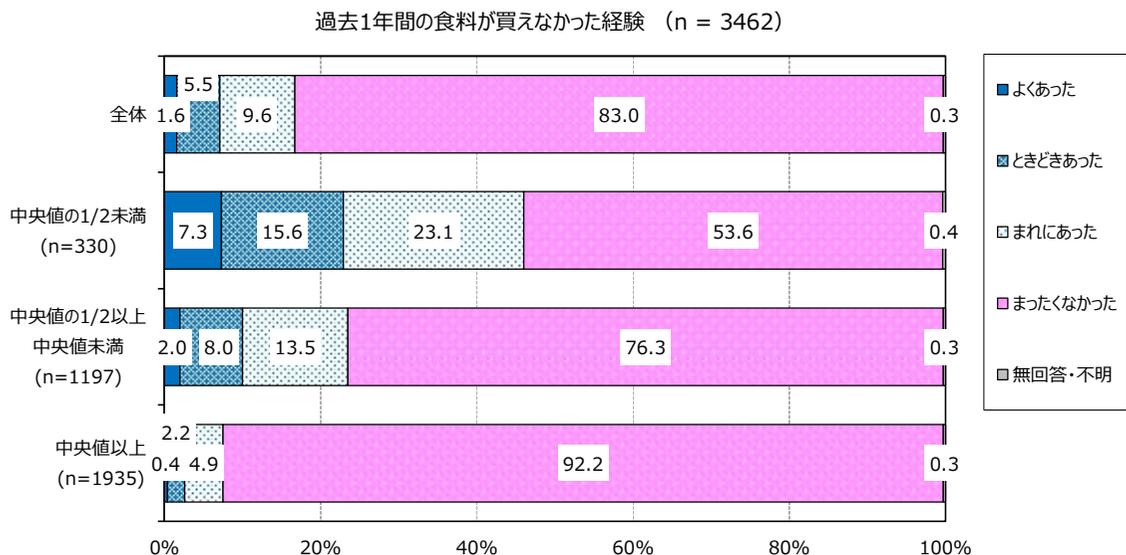
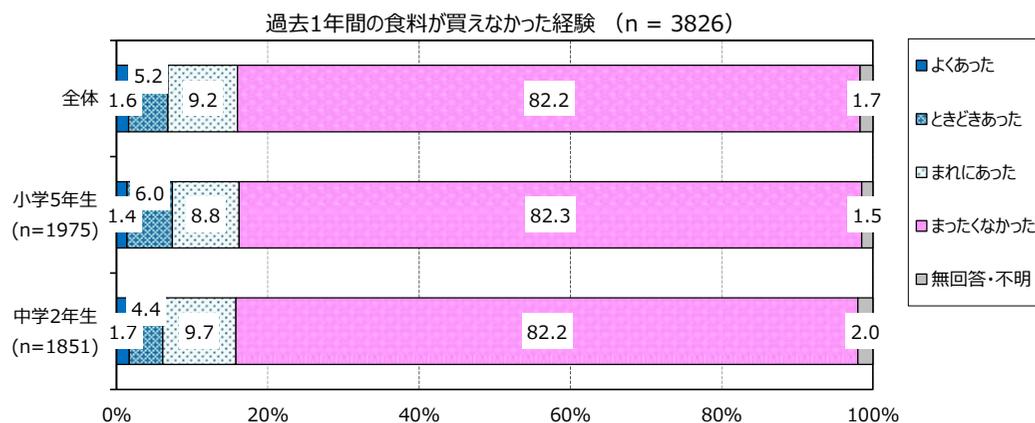


現在の暮らしの状況 (n = 3826)



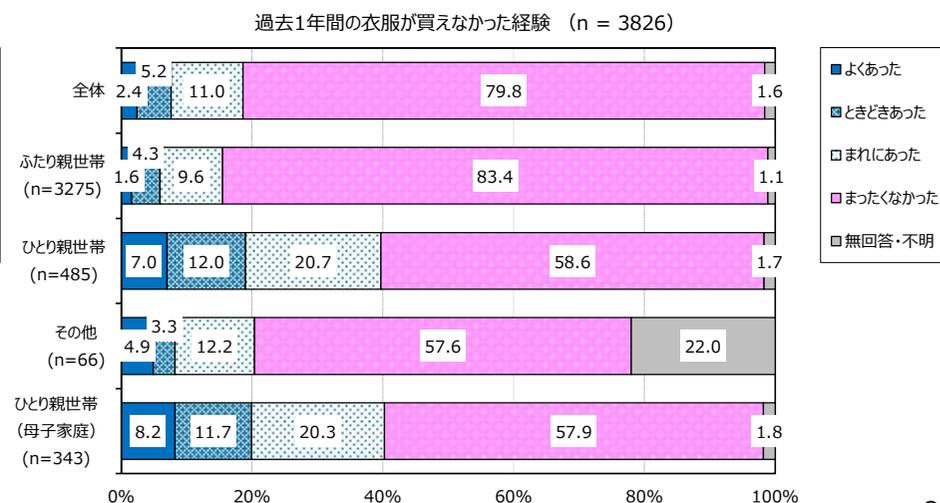
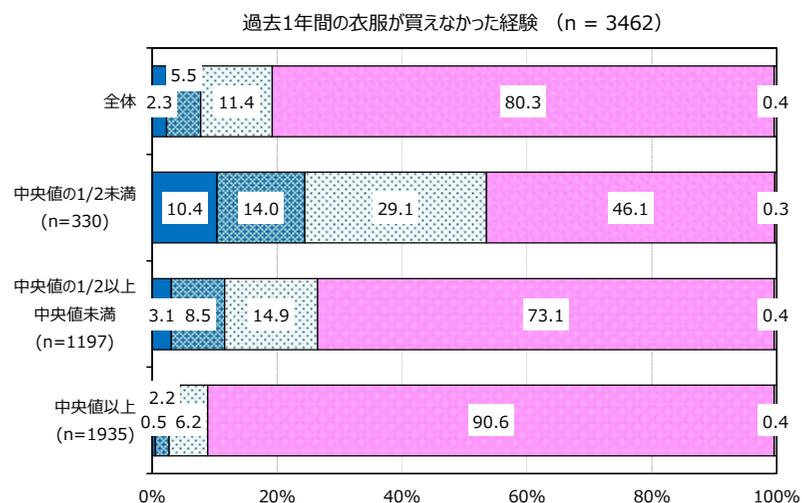
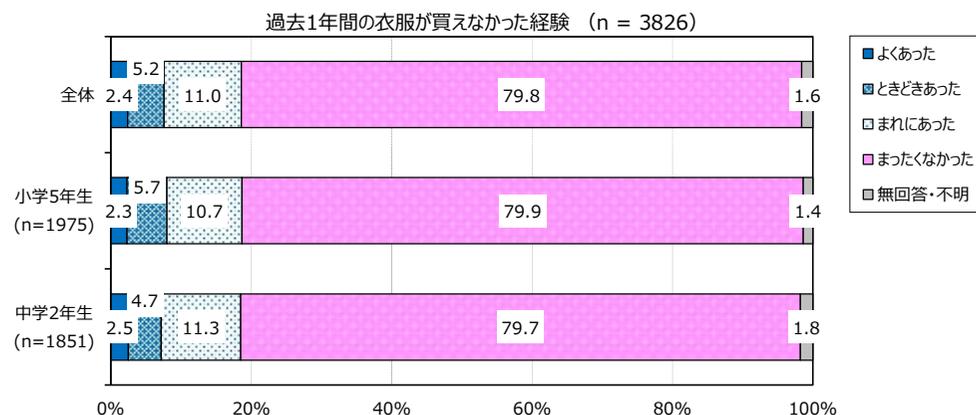
3. 経済的な状況や暮らしの状況(食料が買えなかった経験)

◆ 過去1年間に食料が買えなかった経験は、「中央値の1/2未満」では「よくあった」から「まれにあった」までの合計の割合が46.0%となっており、この区分の約2人に1人が食料を買えなかった経験をしていた。



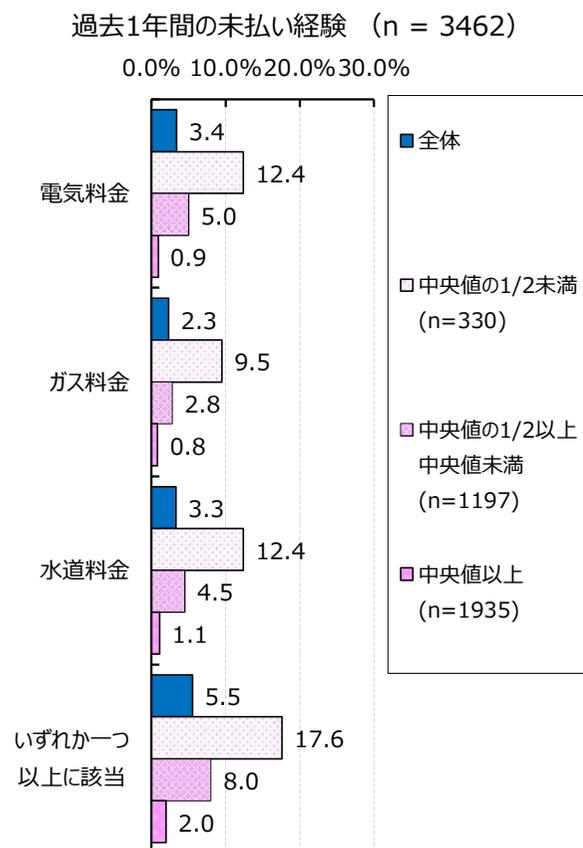
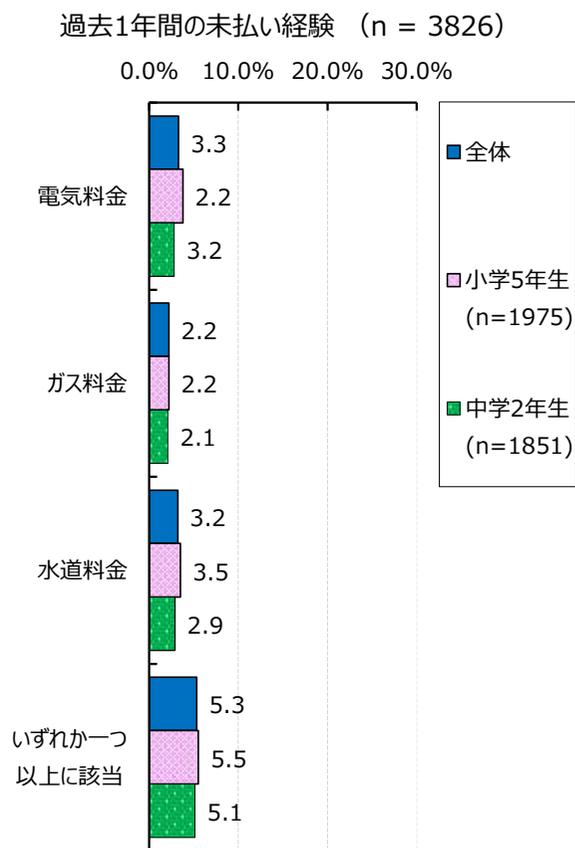
3. 経済的な状況や暮らしの状況(衣服が買えなかった経験)

◆ 過去1年間に衣服が買えなかった経験については、等価世帯収入別では、「よくあった」から「まれにあった」までを合わせた割合は「中央値の1/2未満」で53.5%となっていた。また、世帯の状況別では「よくあった」から「まれにあった」までの合計の割合は「ひとり親世帯」では39.7%、「ひとり親世帯(母子家庭)」では40.2%となっていた。



3. 経済的な状況や暮らしの状況(公共料金における未払いの経験)

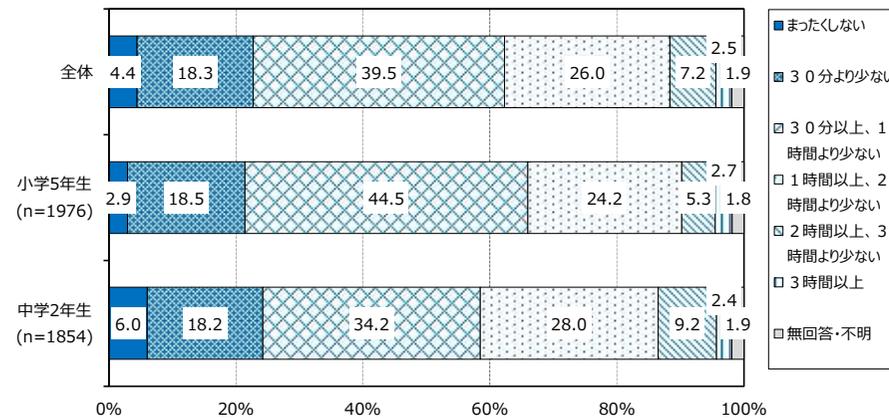
◆ 過去1年間に「電気料金」、「ガス料金」、「水道料金」を経済的な理由で払えなかった世帯の割合は、「中央値の1/2未満」でどの料金においても9.5%以上であった。



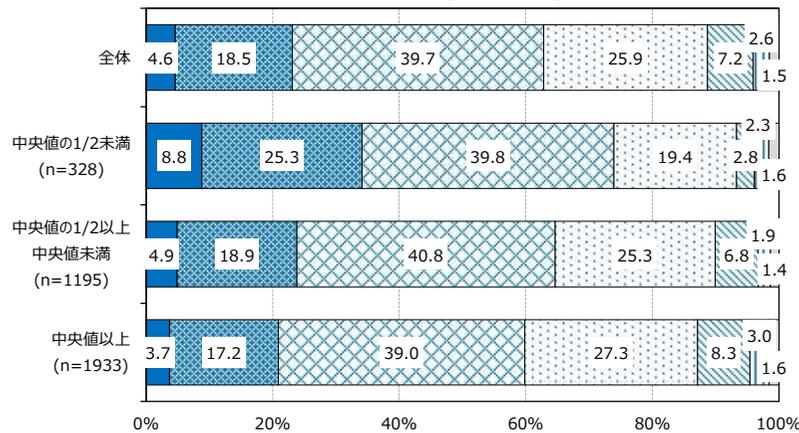
4.子どもの学習状況(1日あたりの勉強時間)

◆ 父だんの学校の授業以外の1日あたりの勉強時間については、等価世帯収入が増えるに従い、「1時間以上」の割合が増加した。また、「ふたり親世帯」に比べ、「ひとり親世帯」では「まったくしない」「30分より少ない」の割合が多い結果となった。

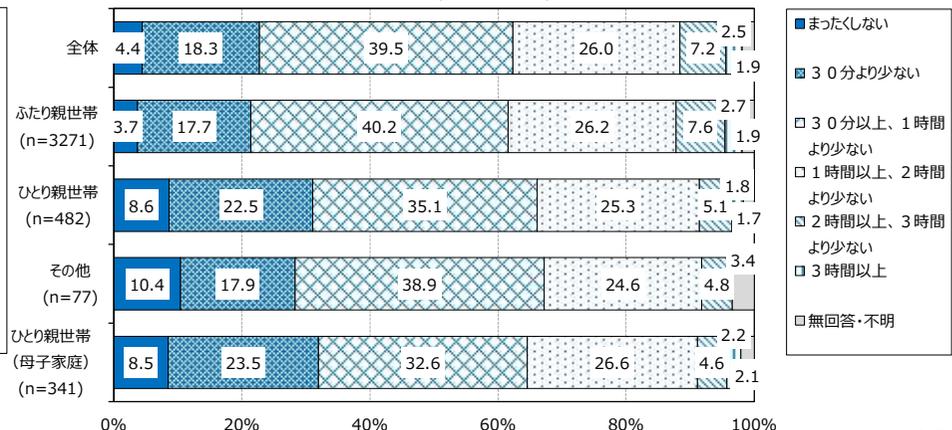
授業以外の勉強時間(学校がある日) (n = 3829)



授業以外の勉強時間(学校がある日) (n = 3456)



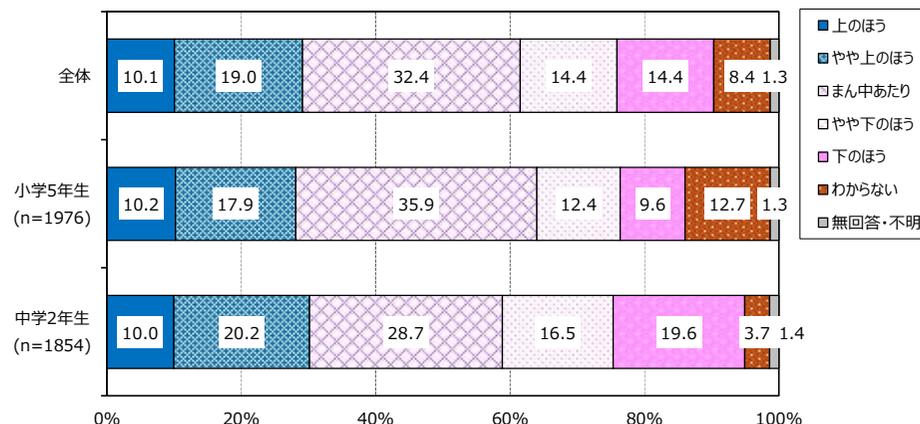
授業以外の勉強時間(学校がある日) (n = 3829)



4.子どもの学習状況(クラスの中での成績)

◆ クラスの中の成績については、「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合が、世帯収入が下がるに連れて、増加する傾向となった。また、「ふたり親世帯」よりも「ひとり親世帯」の方が「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合が多くなる結果となった。

自分の成績 (n = 3829)



自分の成績 (n = 3456)



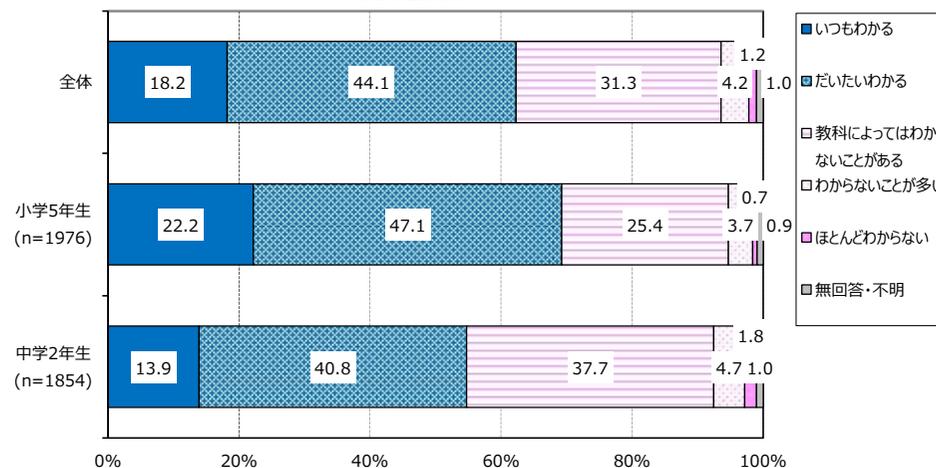
自分の成績 (n = 3829)



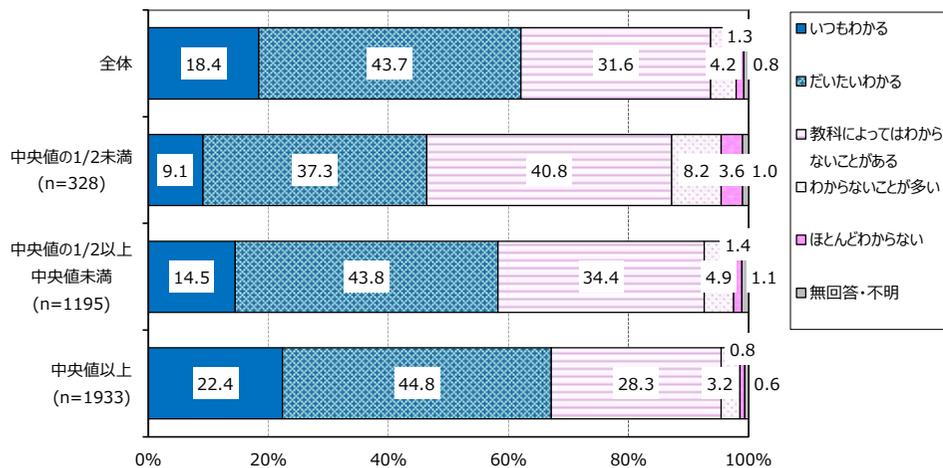
4.子どもの学習状況(授業の理解状況)

◆ 授業の理解度においても、等価世帯収入が少なくなるに従い、「いつもわかる」と「だいたいわかる」を合わせた割合も減少した。また、「ひとり親世帯」においても、「いつもわかる」と「だいたいわかる」を合わせた割合が「ふたり親世帯」より少なくなった。

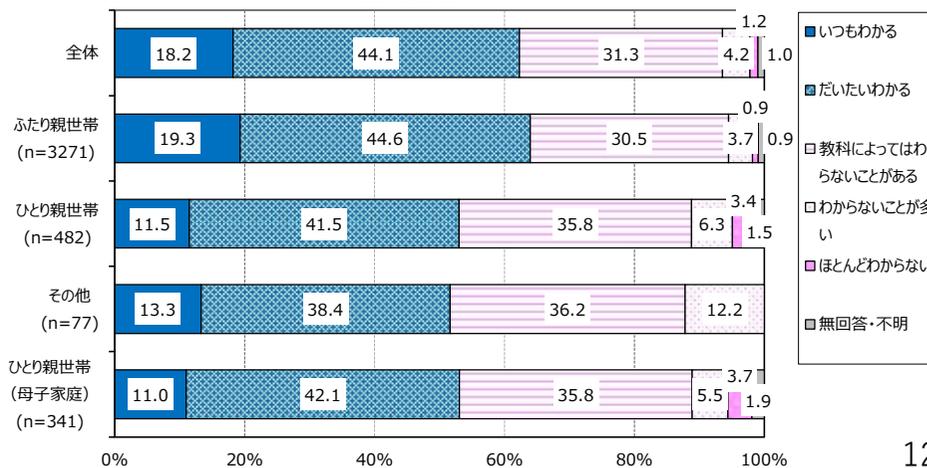
授業理解度 (n = 3829)



授業理解度 (n = 3456)



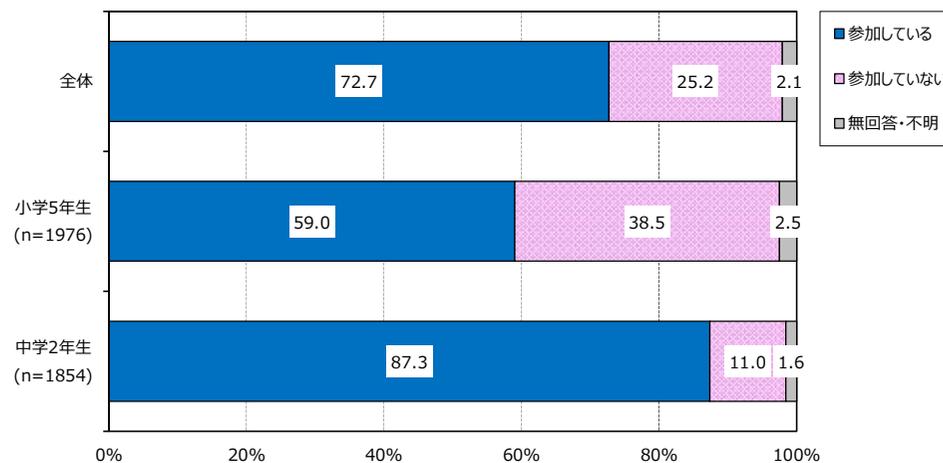
授業理解度 (n = 3829)



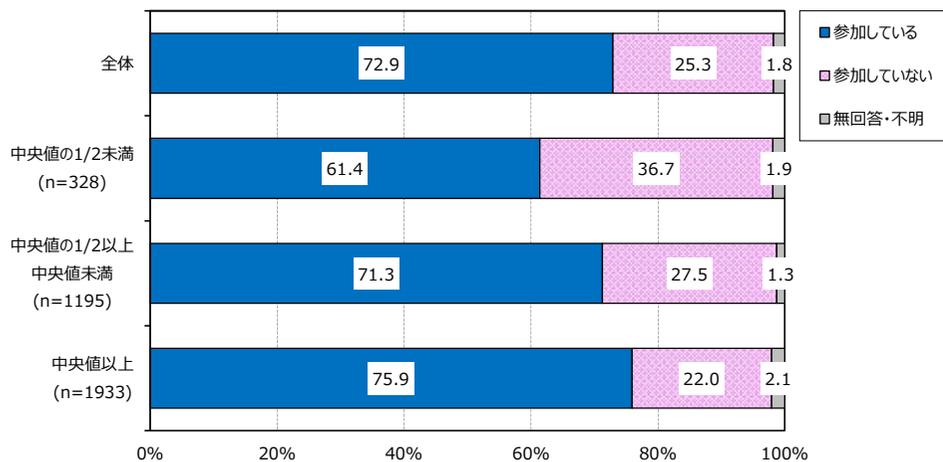
5.部活動等への参加状況

◆ 部活動等の参加状況については、等価世帯年収が下がるに連れて「参加している」の割合も減少した。「ふたり親世帯」の「参加している」の割合が、「ひとり親世帯」よりも多い結果となった。

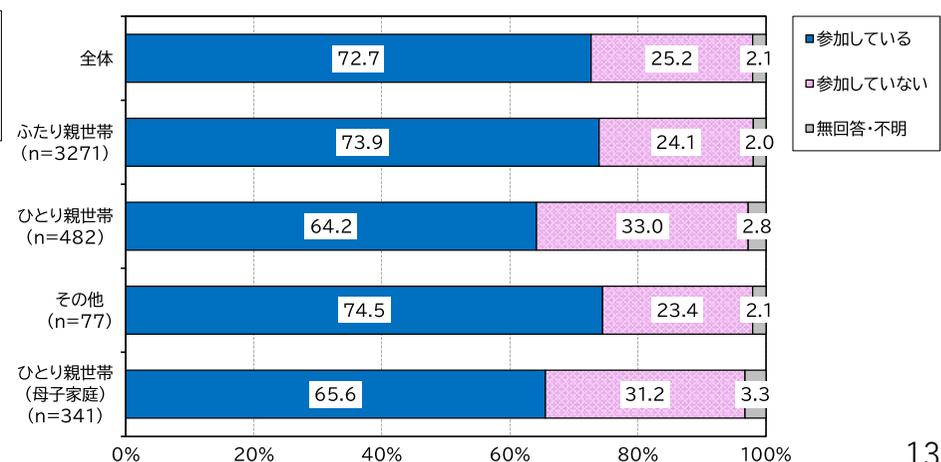
部活等の参加 (n = 3829)



部活等の参加 (n = 3456)

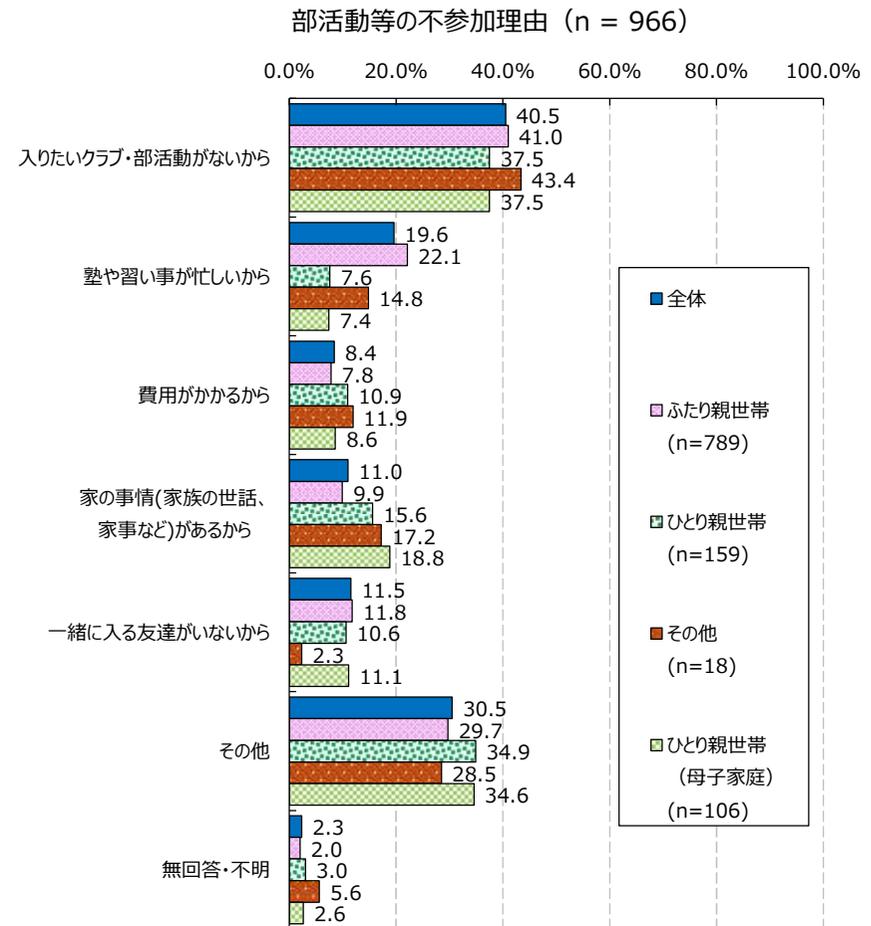
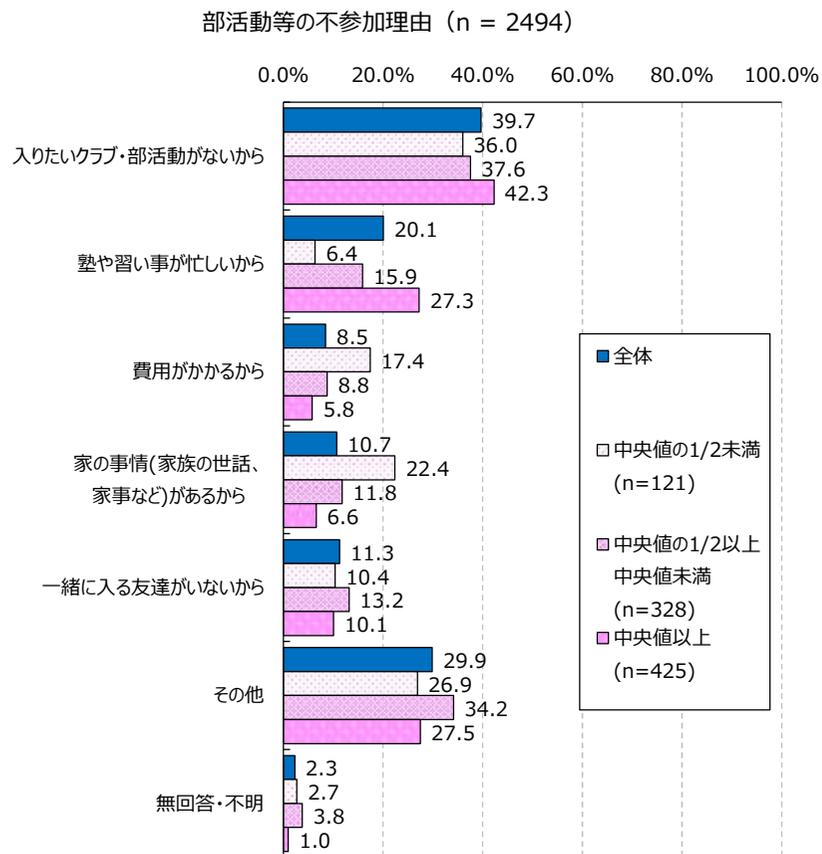


部活等の参加 (n = 3829)



5.部活動等への参加状況

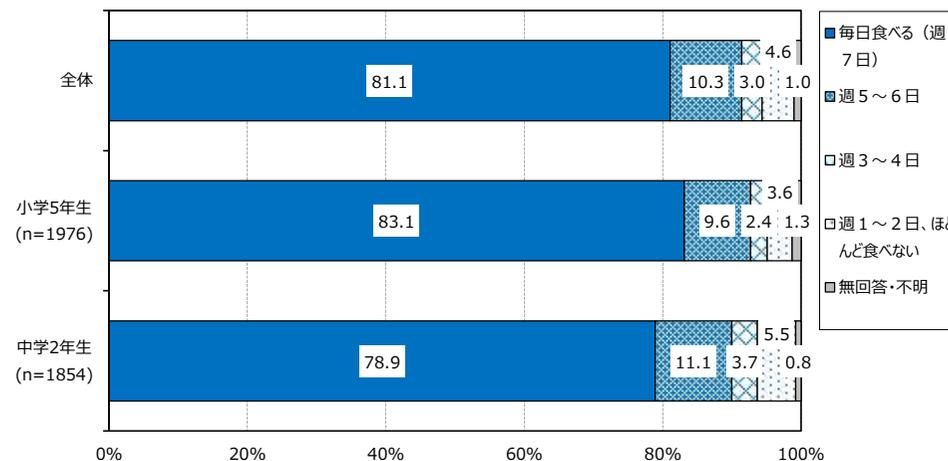
◆ 部活動等に参加していない理由では、等価世帯収入別の「中央値の1/2未満」において、「費用がかかるから」、「家の事情があるから」が他の収入の層よりも多い割合となっており、家庭の経済的な状況や介護などの家庭の事情による影響が想定される。



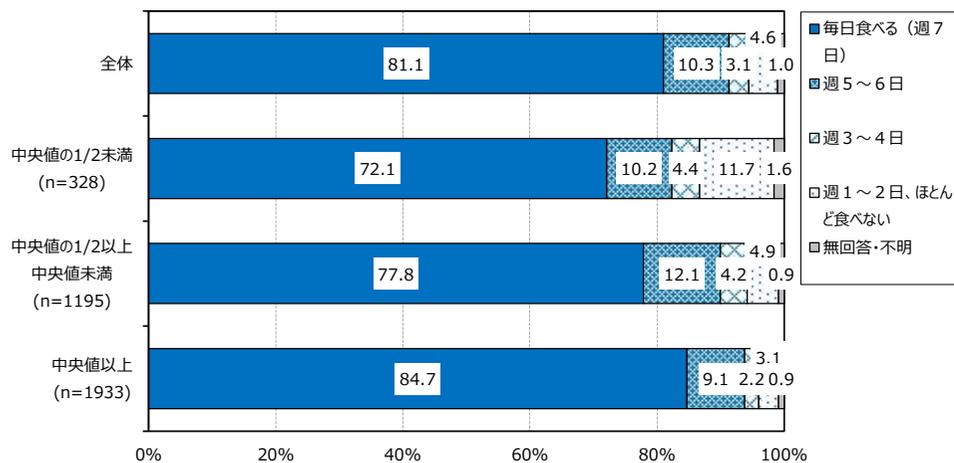
6.子どもの日常的な生活状況(朝食の状況)

◆ 父だんの朝食の状況においては、等価世帯収入が少なくなるに従い、食事の頻度が減少する傾向がみられた。また、「毎日食べる」の割合は「ひとり親世帯」よりも「ふたり親世帯」で多くなった。

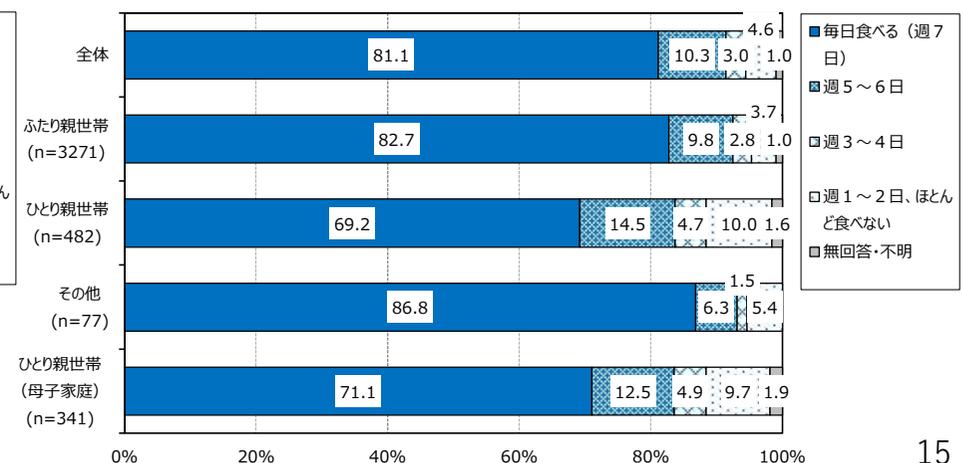
食事頻度(朝食) (n = 3829)



食事頻度(朝食) (n = 3456)



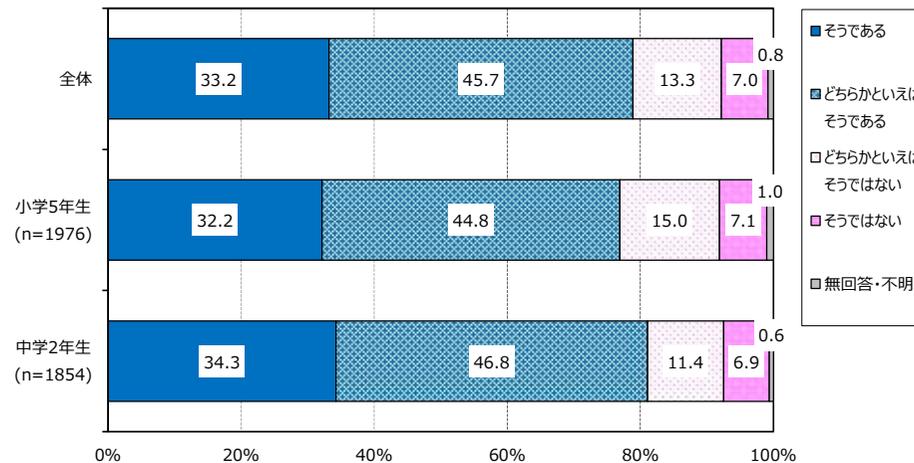
食事頻度(朝食) (n = 3829)



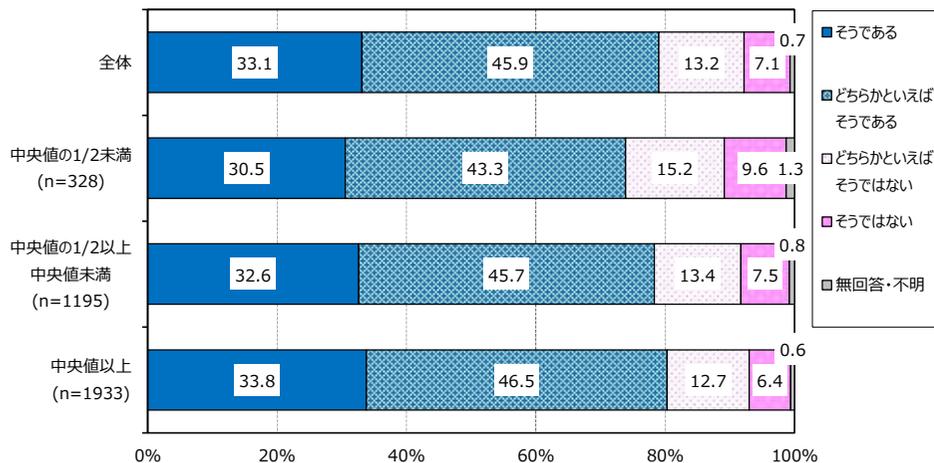
6.子どもの日常的な生活状況(就寝時間)

◆ 就寝時間については、等価世帯収入が少なくなるに従い、ほぼ同じ時間に寝ているということに対して「そうである」「どちらかといえばそうである」を合わせた割合が減少する傾向がみられた。また、同割合は「ひとり親世帯」よりも「ふたり親世帯」で多くなった。

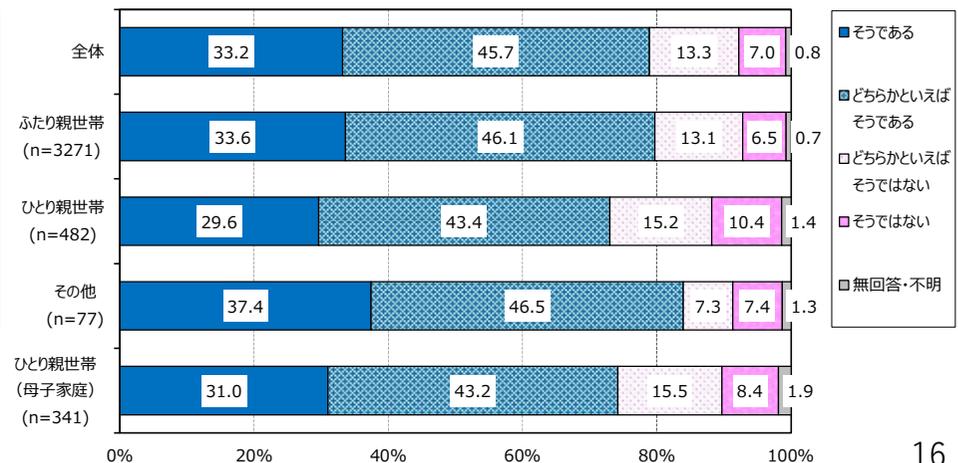
平日の同じ就寝時間 (n = 3829)



平日の同じ就寝時間 (n = 3456)

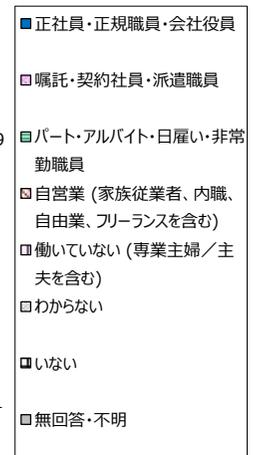
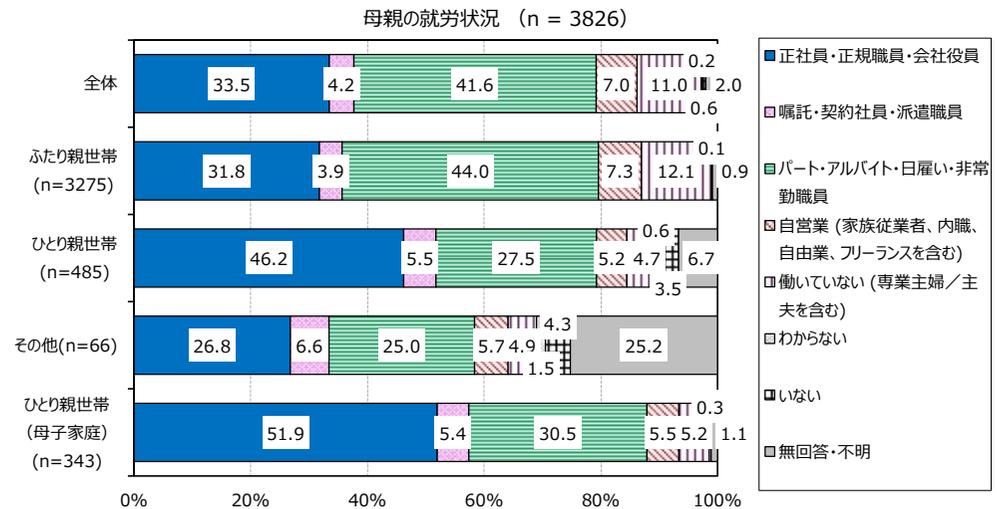
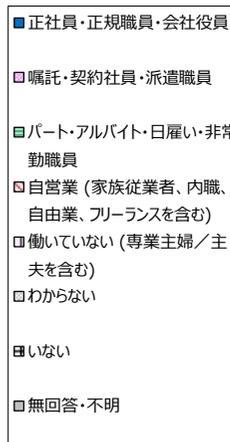
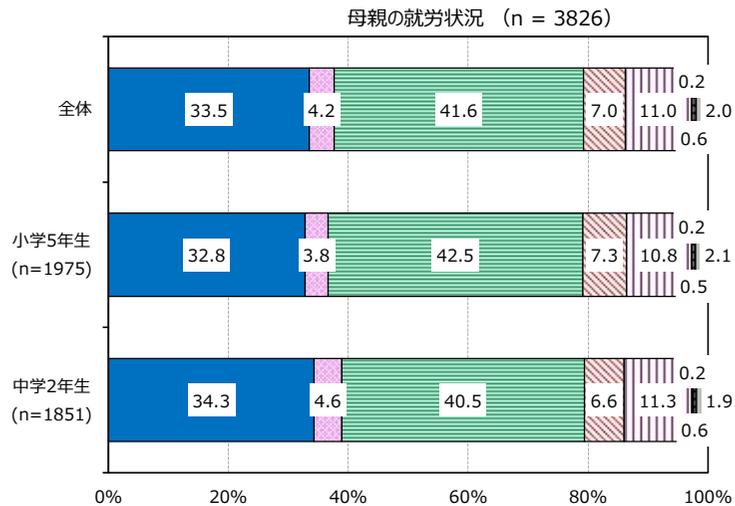


平日の同じ就寝時間 (n = 3829)



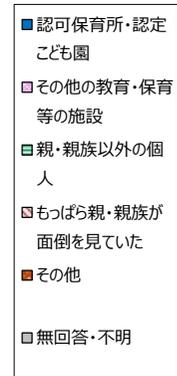
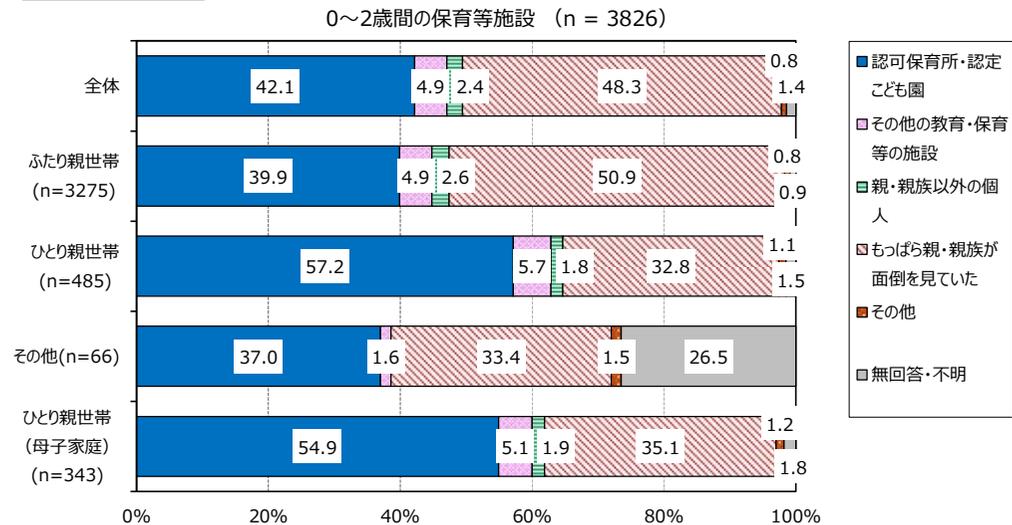
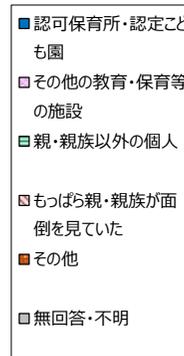
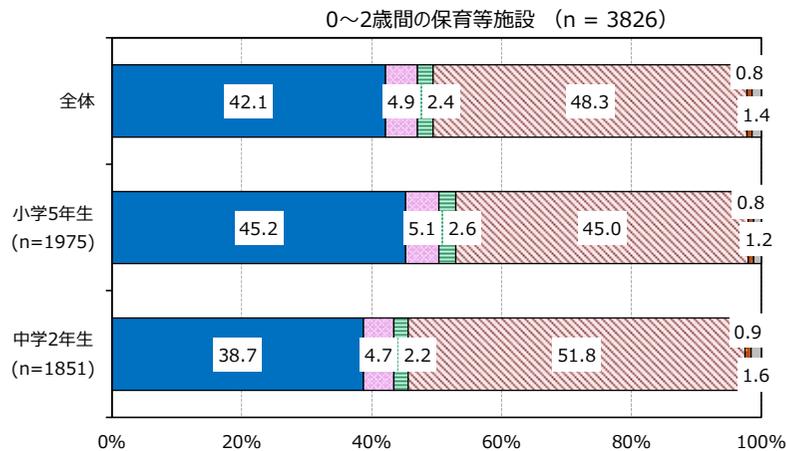
7.子どもの親の就労状況

◆ 子どもの親の就労状況については、母親において「ひとり親世帯」で「正社員・正規職員・会社役員」の割合が46.2%と、「ふたり親世帯」に比べ、大幅に多くなっていた。「ひとり親世帯」の母子家庭では、「正社員・正規職員・会社役員」の割合は51.9%と、50%を超えていた。



8.保育の状況

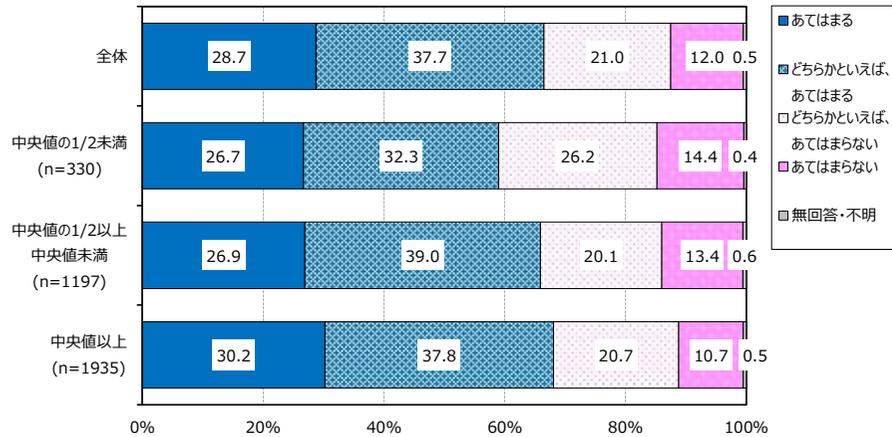
◆ 子どもが0～2歳の時に通っていた教育・保育施設等については、「ひとり親世帯」では、「認可保育所・認定こども園」が57.2%と最も多く、続いて「もっばら親・親族が面倒を見ていた」が32.8%で多い結果となった。「ふたり親世帯」では、「認可保育所・認定こども園」が39.9%、「もっばら親・親族が面倒を見ていた」が50.9%となっており、「ひとり親世帯」と逆の結果となる傾向がみられた。



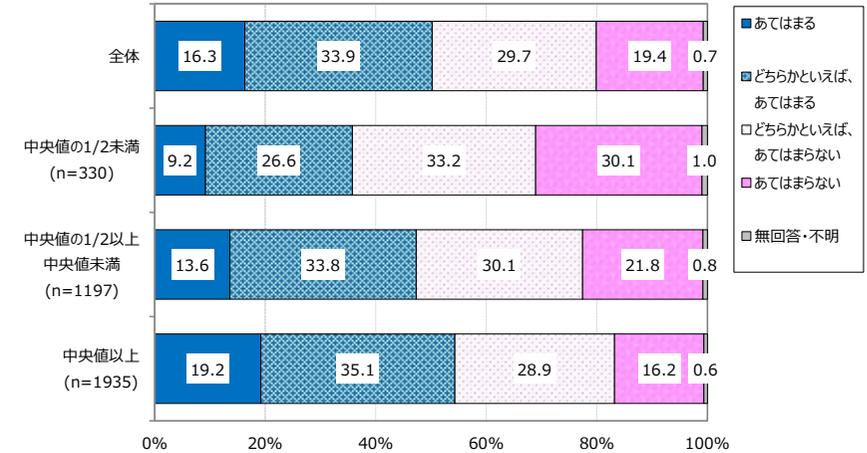
9.子どもとの関わり方

◆ 子どもとの関わり方においては、どの質問においても等価世帯収入が高くなるほど、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計の割合が多くなった。また、「ひとり親世帯」よりも「ふたり親世帯」の方が「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計の割合が多くなった。

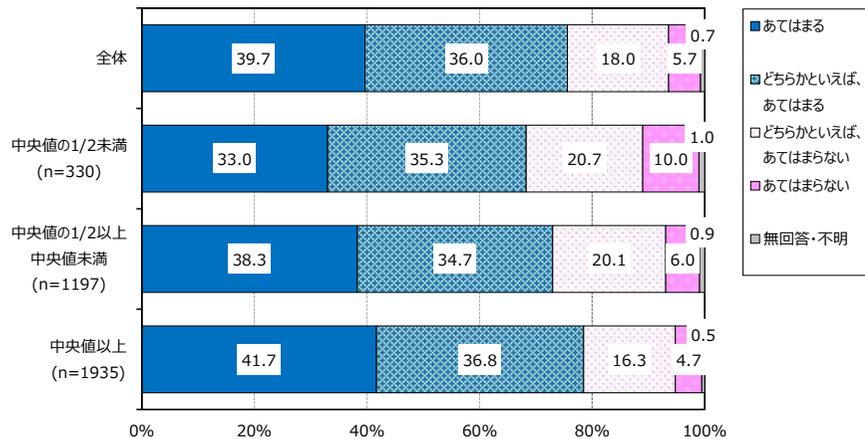
テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている (n = 3462)



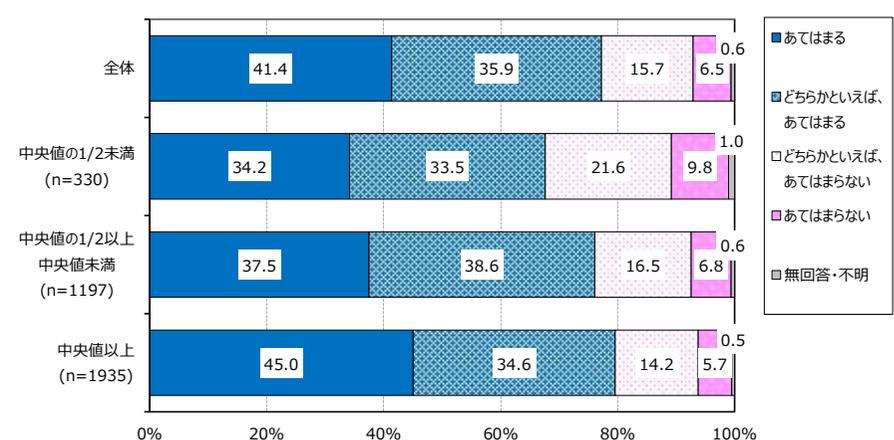
お子さんに本や新聞を読むように勧めている (n = 3462)



お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた (n = 3462)

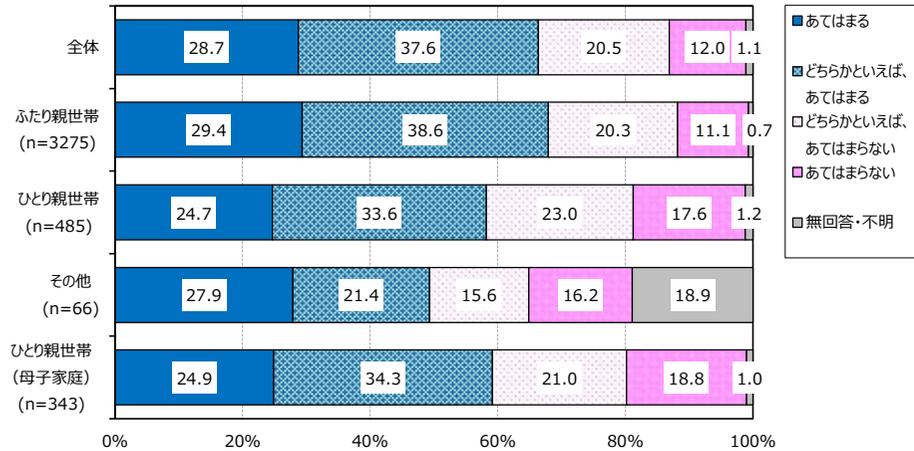


お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる (n = 3462)

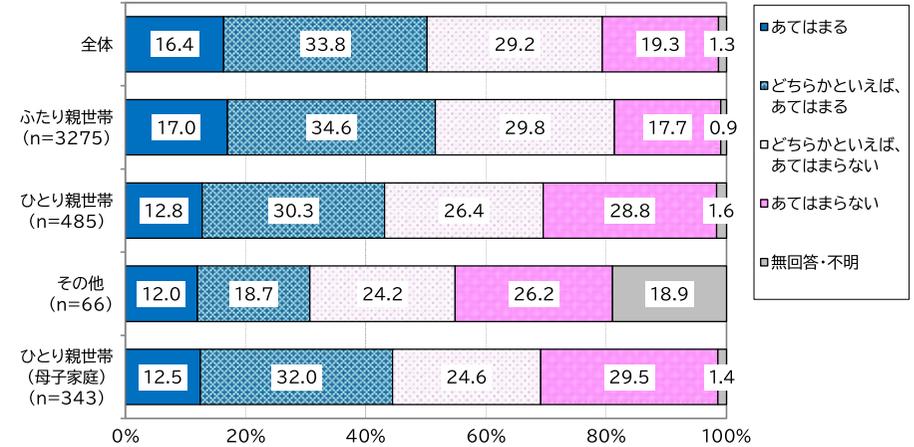


9.子どもとの関わり方

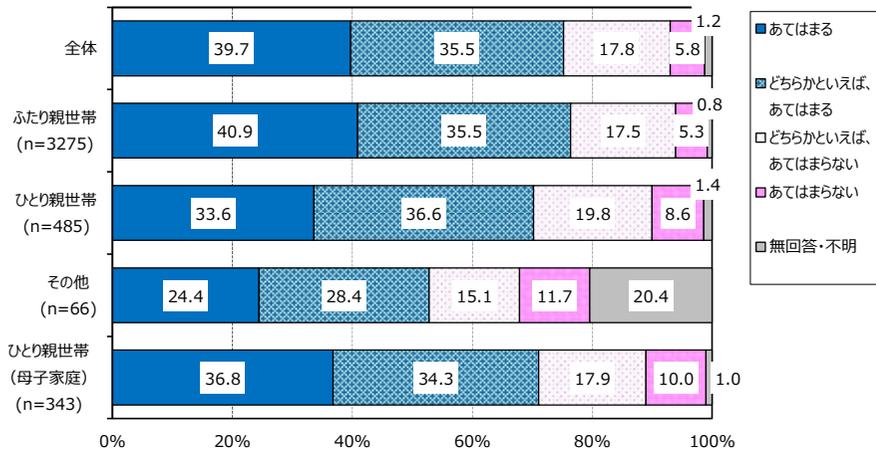
テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている (n = 3826)



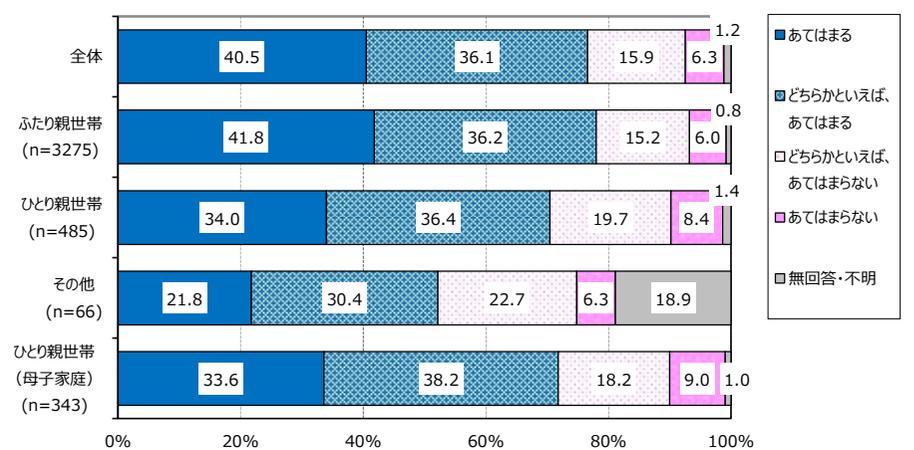
お子さんに本や新聞を読むように勧めている (n = 3826)



お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた (n = 3826)

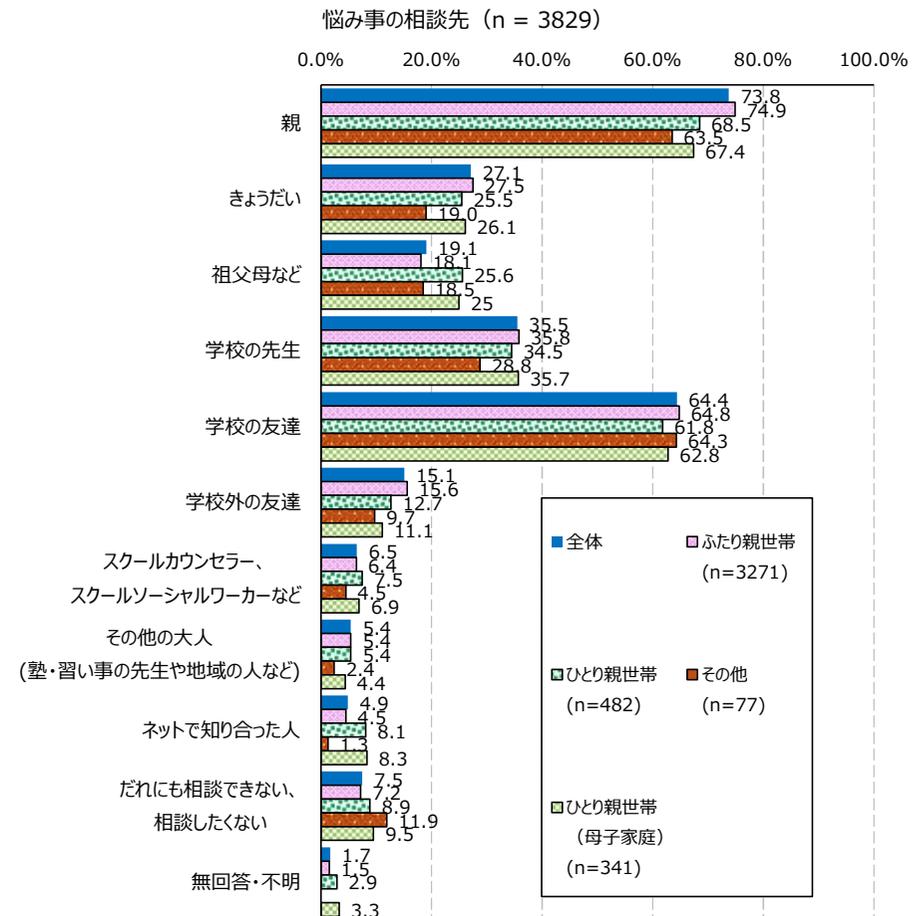
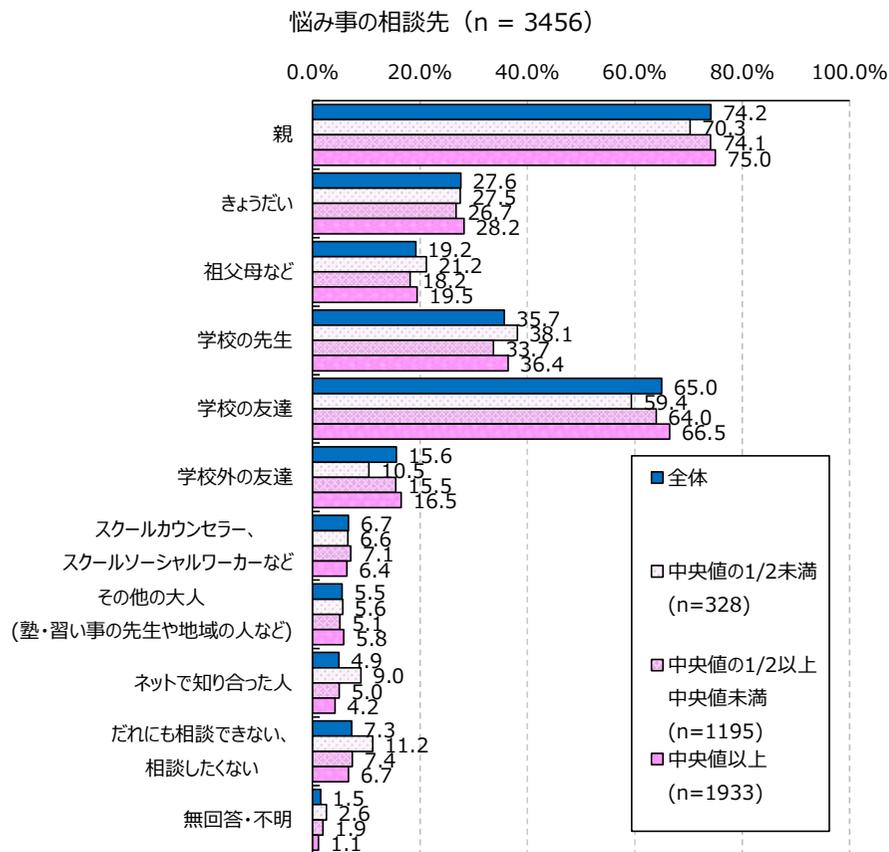


お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる (n = 3826)



10.相談相手(子どもが相談できると思う相手)

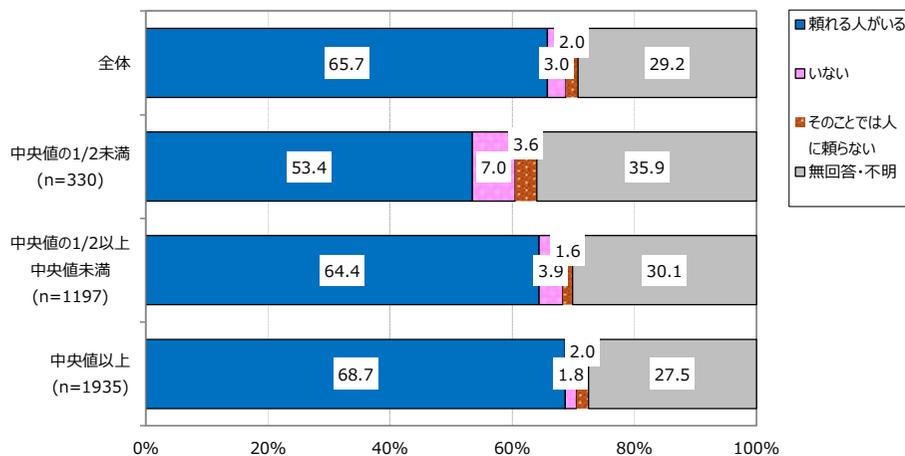
◆ 子どもが相談できると思う相手については、等価世帯年収の「中央値の1/2未満」、世帯の状況の「ひとり親世帯」において、「祖父母など」、「ネットで知り合った人」、「誰にも相談できない、相談したくない」が他の層に比べて多い結果となった。「誰にも相談できない、相談したくない」に関しては、そのような問題を解決することが必要になると考えられる。



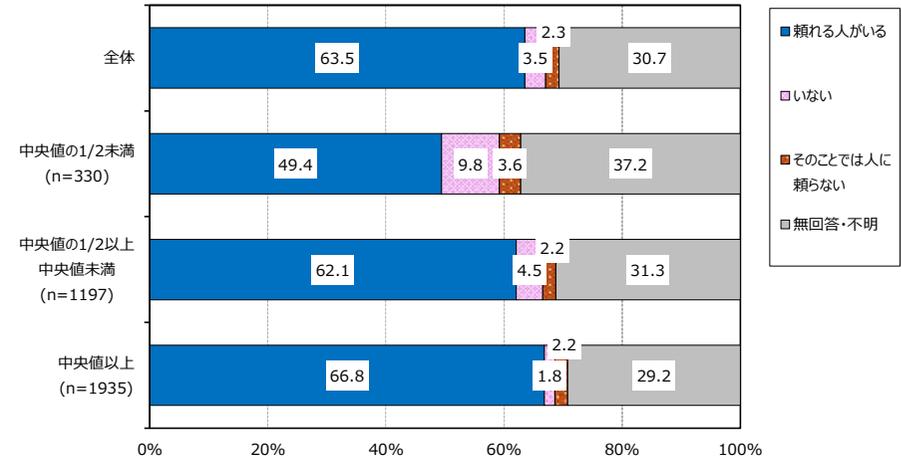
10.相談相手(保護者が頼れる人の有無・相手)

◆ 保護者が頼れる人の有無については、どの質問においても等価世帯収入が下がるに従い、「頼れる人がいる」の割合が少なくなり、「ひとり親世帯」よりも「ふたり親世帯」の方が「頼れる人がいる」の割合が多くなっていった。収入が少ない世帯や「ひとり親世帯」の方が、周りに相談やお願いをしにくい状況にあると想定される。

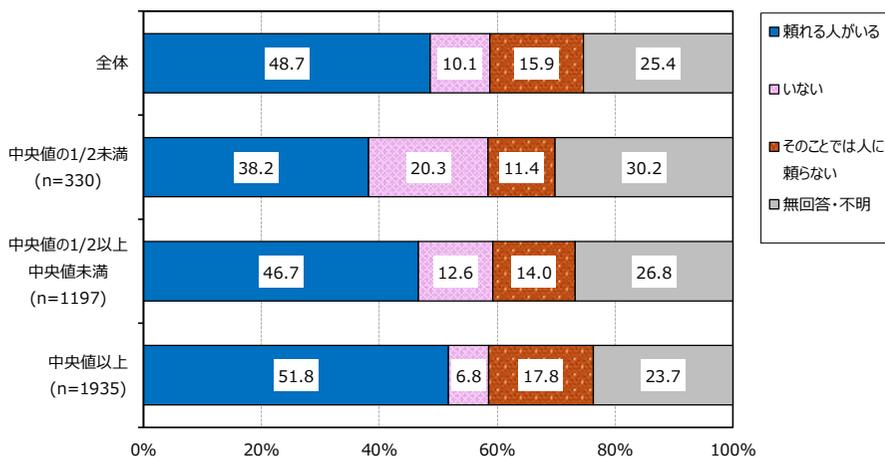
頼れる人の有無(子育てに関する相談) (n = 3462)



頼れる人の有無(重要な事柄の相談) (n = 3462)

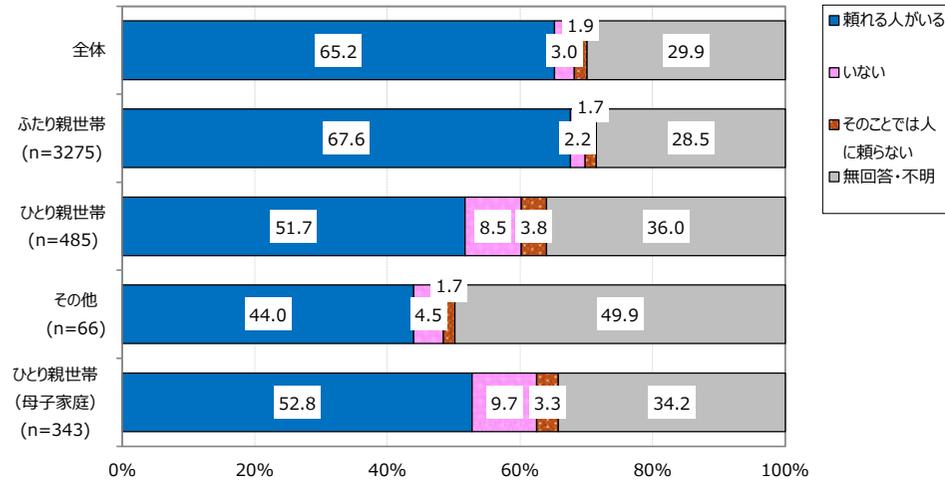


頼れる人の有無(いざという時のお金の援助) (n = 3462)

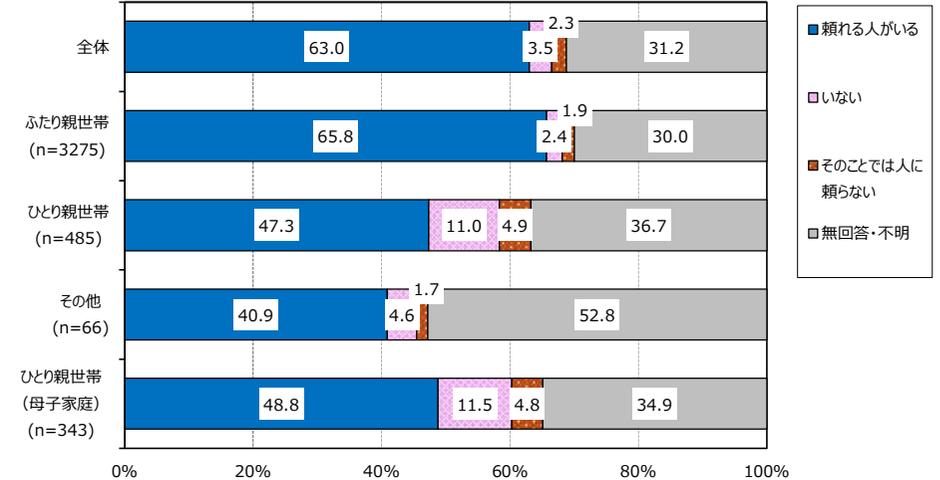


10.相談相手(保護者が頼れる人の有無・相手)

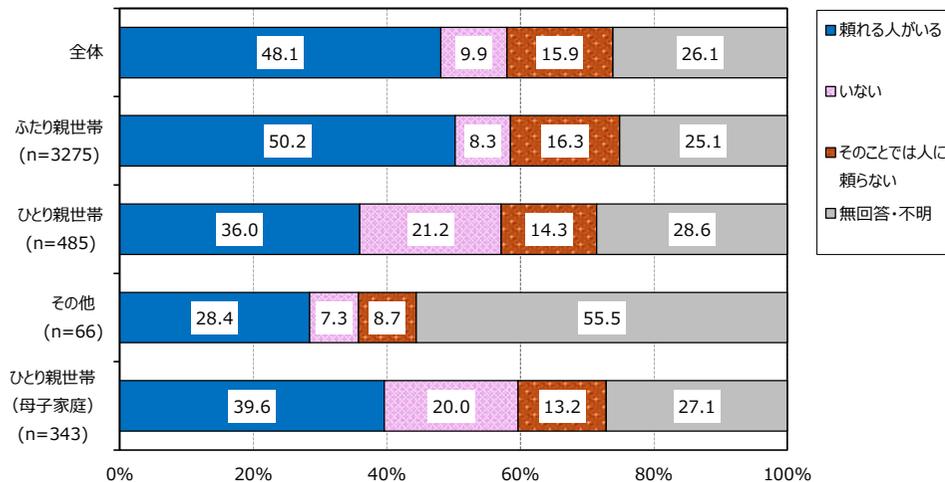
頼れる人の有無(子育てに関する相談) (n = 3826)



頼れる人の有無(重要な事柄の相談) (n = 3826)



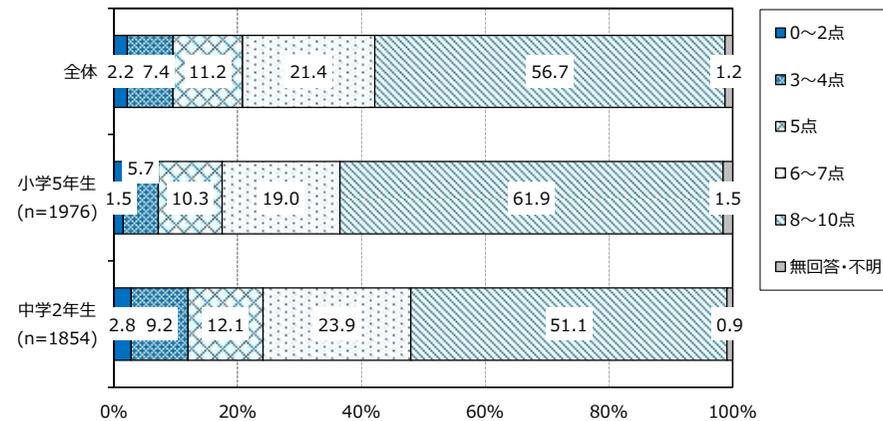
頼れる人の有無(いざという時のお金の援助) (n = 3826)



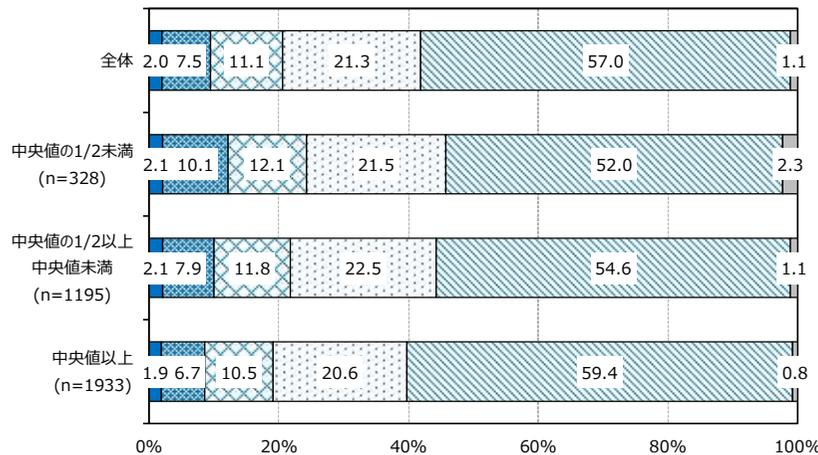
11.生活の満足度(子どもの生活の満足度)

◆ 子どもの生活の満足度については、最近の生活、学校生活、家庭生活のどれにおいても、等価世帯収入が上がると満足度も高くなり、「ひとり親世帯」よりも「ふたり親世帯」で満足度が高くなる結果となった。

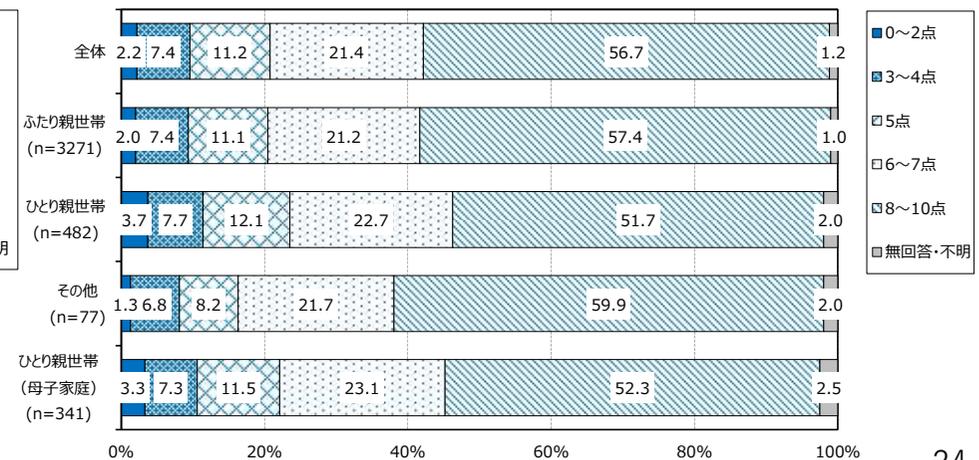
生活満足度 (n = 3829)



生活満足度 (n = 3456)



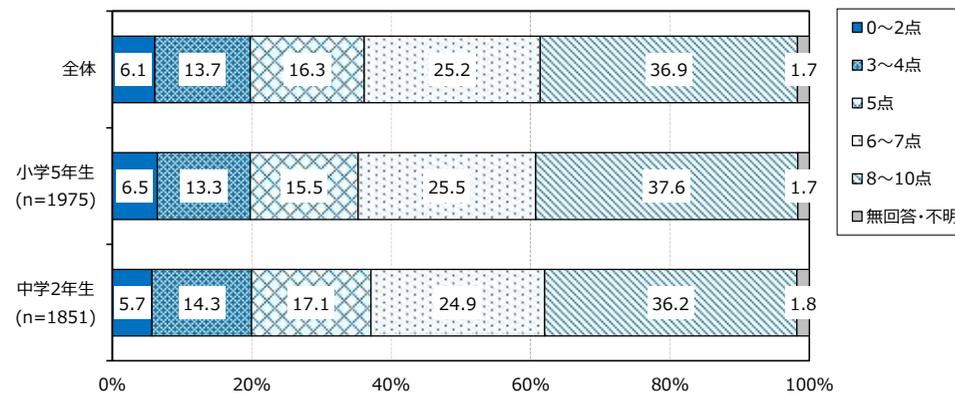
生活満足度 (n = 3829)



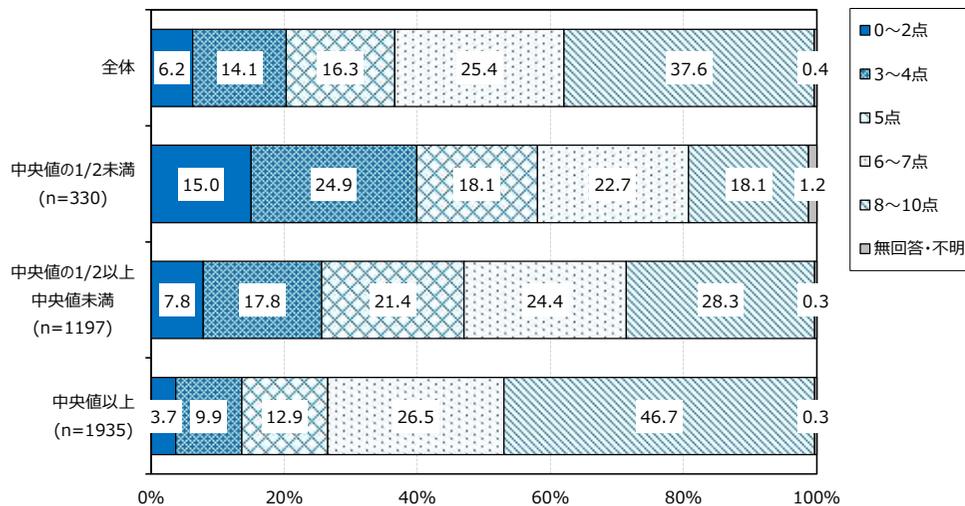
11.生活の満足度(保護者の生活の満足度)

◆ 保護者の生活の満足度については、等価世帯収入が上がるに連れて、満足度も上がる結果となった。また、「4点以下」は「ひとり親世帯」では34.6%、「ふたり親世帯」では17.8%となっており、「ひとり親世帯」と「ふたり親世帯」で約2倍の差がみられた。

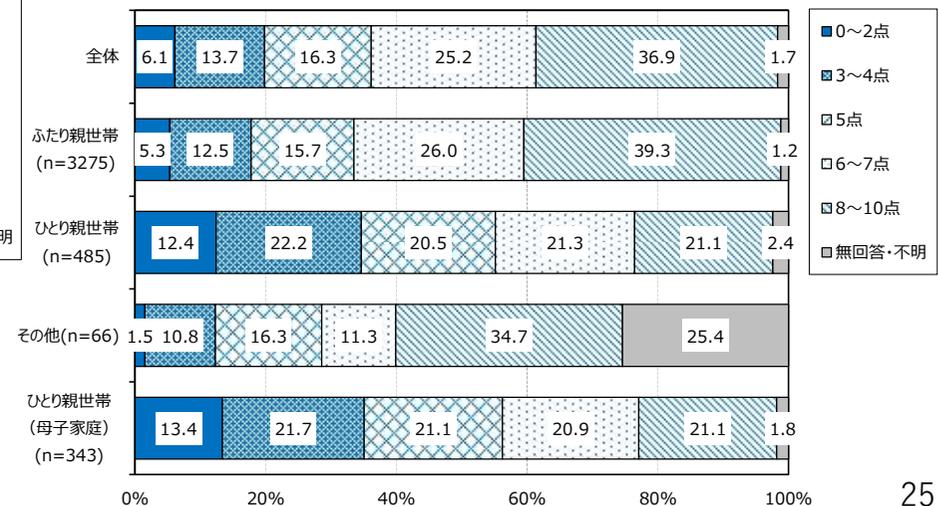
生活満足度 (n = 3826)



生活満足度 (n = 3462)



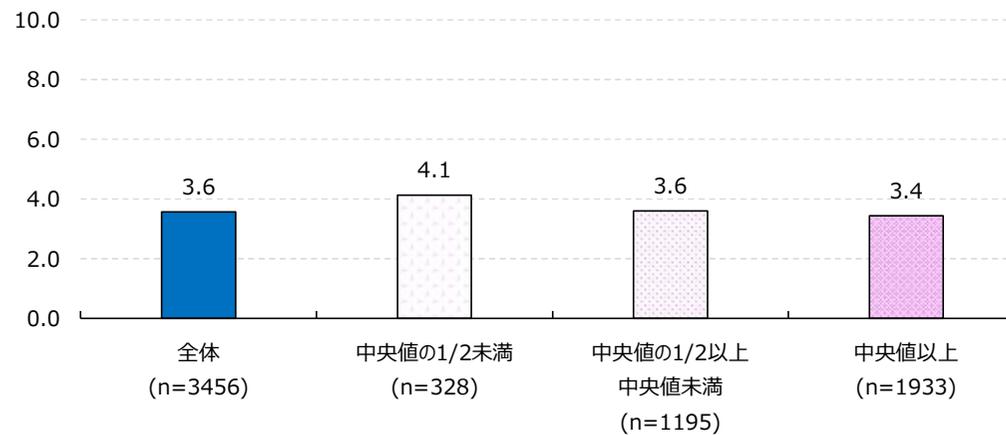
生活満足度 (n = 3826)



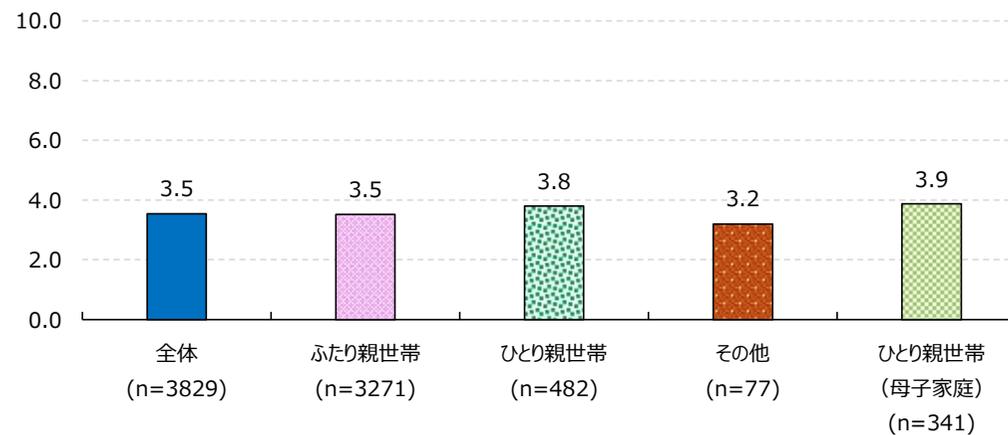
12.心理的な状態(子どもの心理的な状態)

- ◆ 子どもの心理的な状態については、「情緒の問題」、「仲間関係の問題」において、等価世帯収入が上がると問題性が低くなり、「ひとり親世帯」よりも「ふたり親世帯」で問題性が低くなる結果となった。

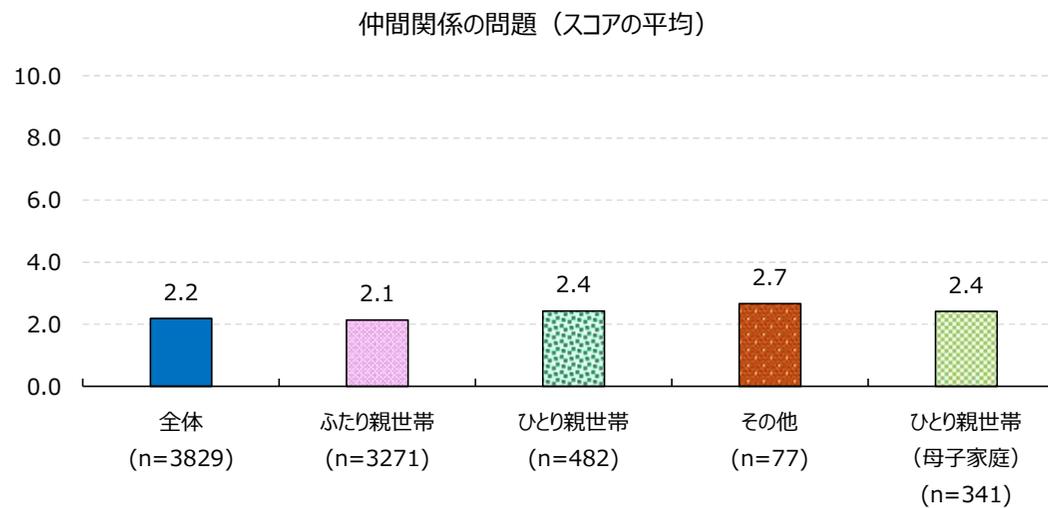
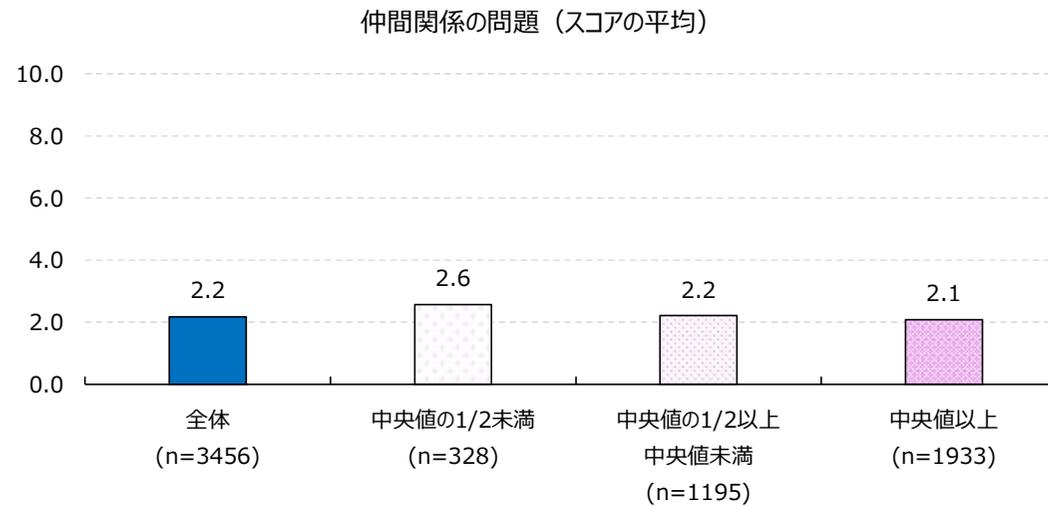
情緒の問題 (スコアの平均)



情緒の問題 (スコアの平均)



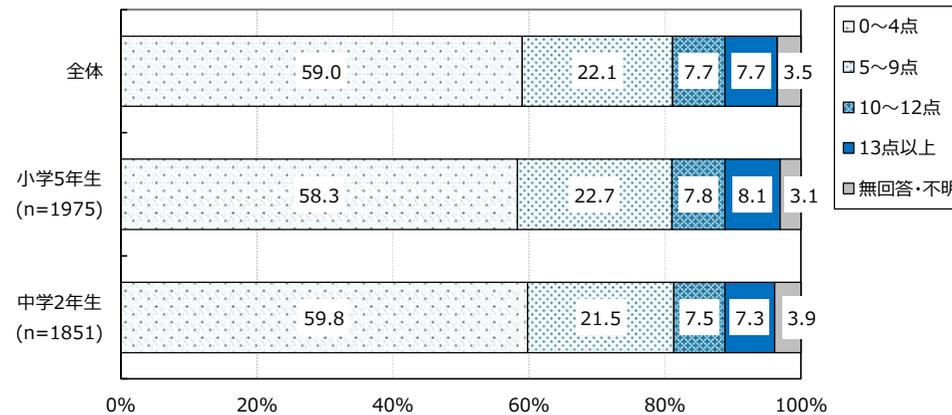
12.心理的な状態(保護者の心理的な状態)



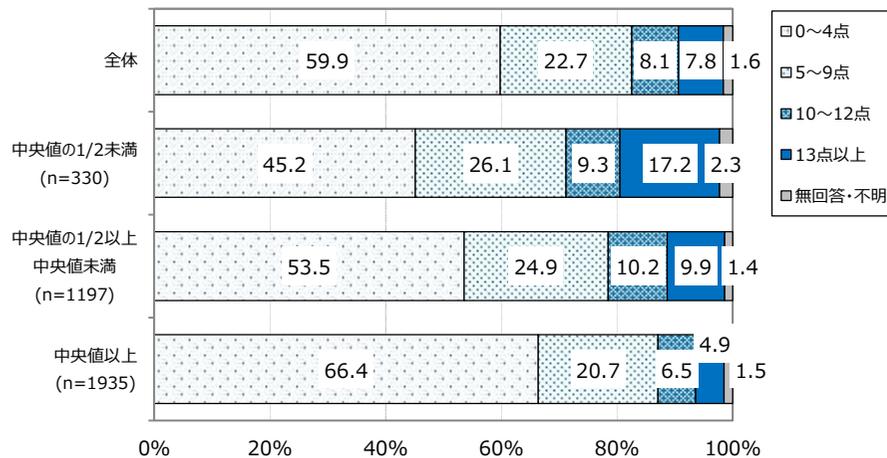
12.心理的な状態(保護者の心理的な状態)

◆ 保護者の心理的な状態については、等価世帯収入が下がるほど、スコアが高くなり、ストレスが多い状況にある傾向がみられました。また、「ふたり親世帯」よりも「ひとり親世帯」のスコアが高くなる結果となりました。

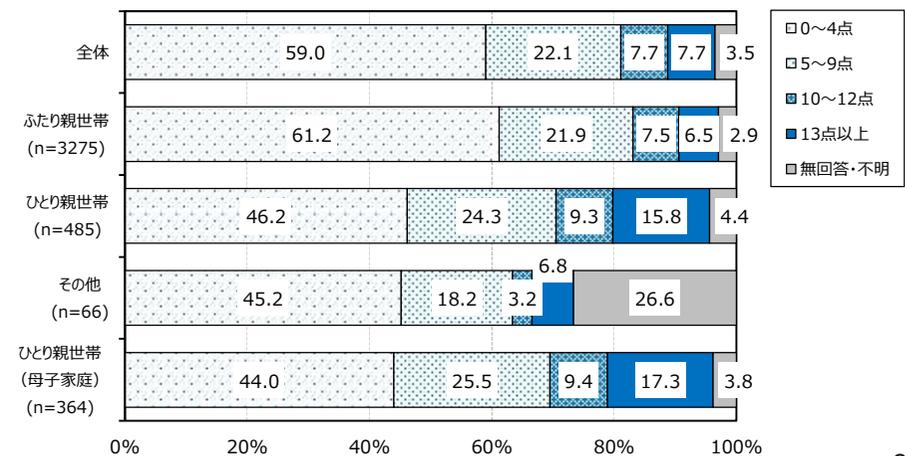
保護者の心理的な状態 (n = 3826, K6スコア)



保護者の心理的な状態 (n = 3462, K6スコア)

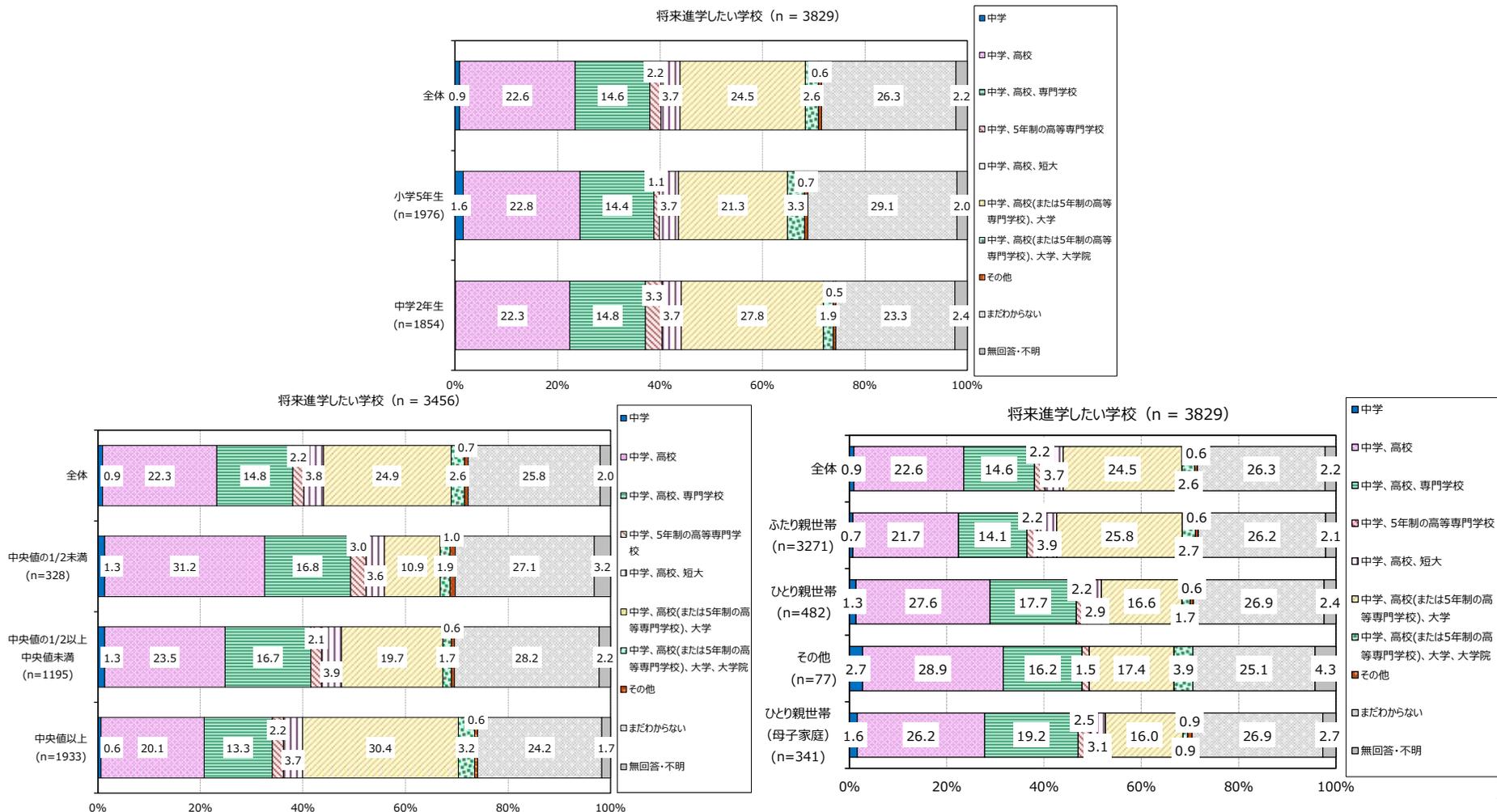


保護者の心理的な状態 (n = 3826, K6スコア)



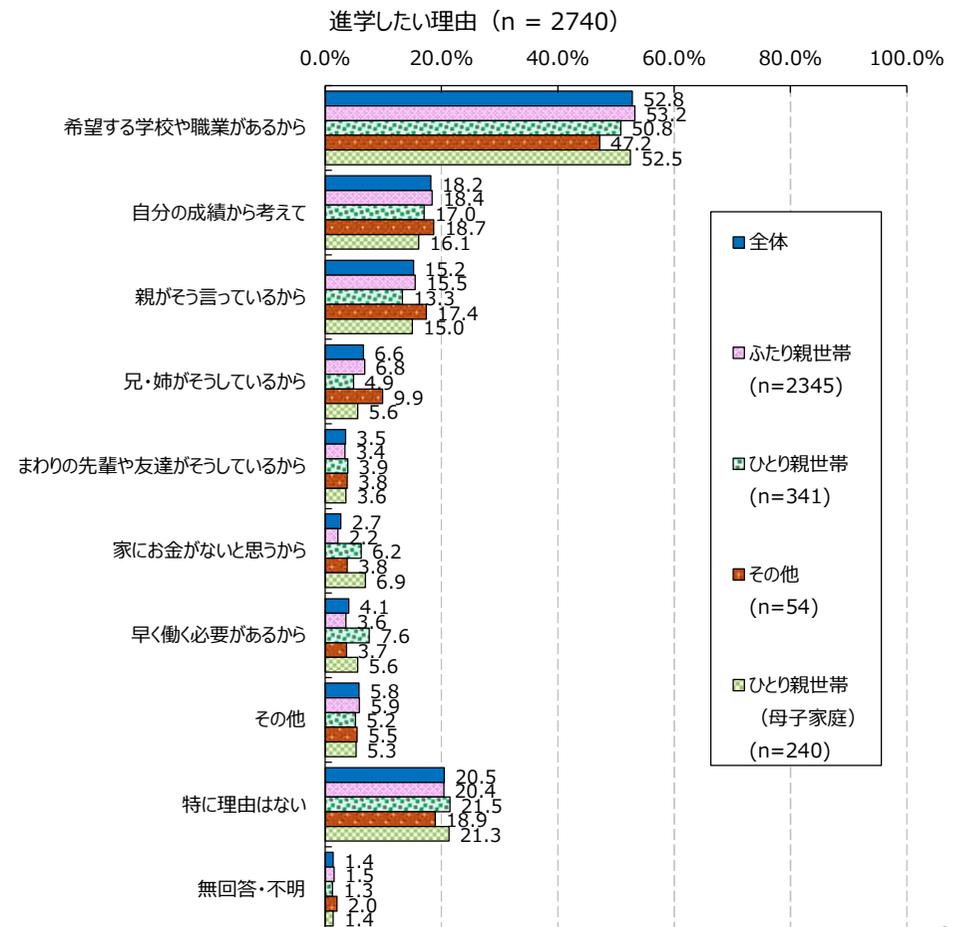
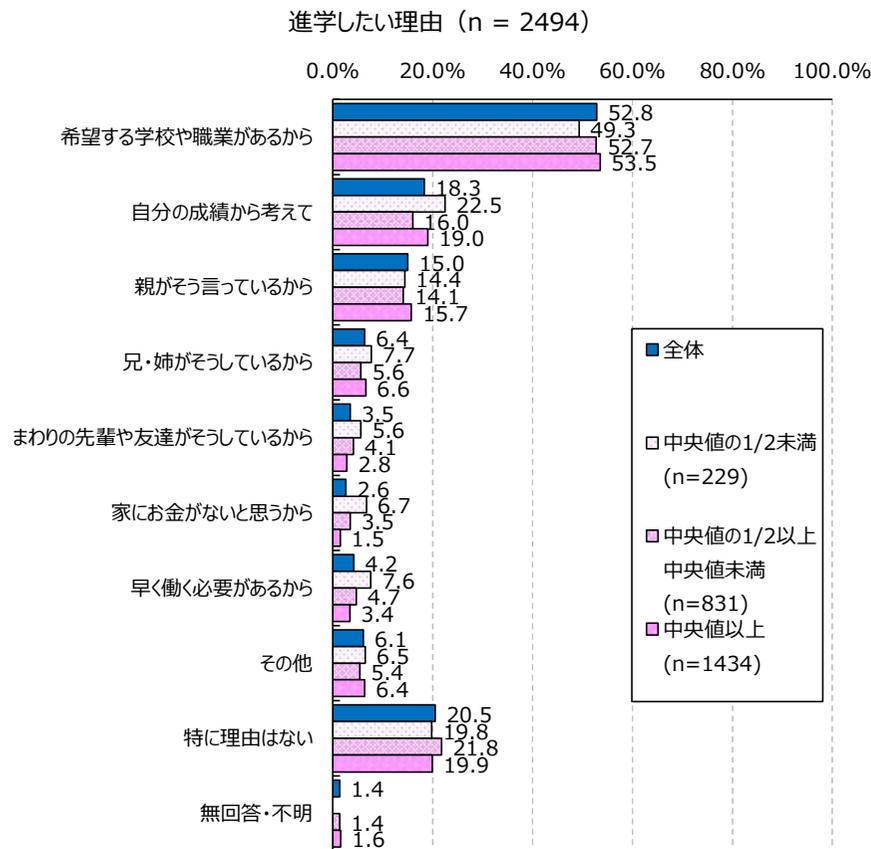
13.進学(子どもの進学の希望)

◆ 子どもの将来の進学の希望については、等価世帯収入が増えるに連れて、「大学まで」が増え、「高校まで」が減少しており、保護者の進学段階の希望・展望と一致した動きとなっていた。また、「ひとり親世帯」と「ふたり親世帯」を比較すると、「高校、専門学校」までの割合（「中学」「中学、高校」「中学、高校、専門学校」を合わせた割合）が「ひとり親世帯」で多くなった。



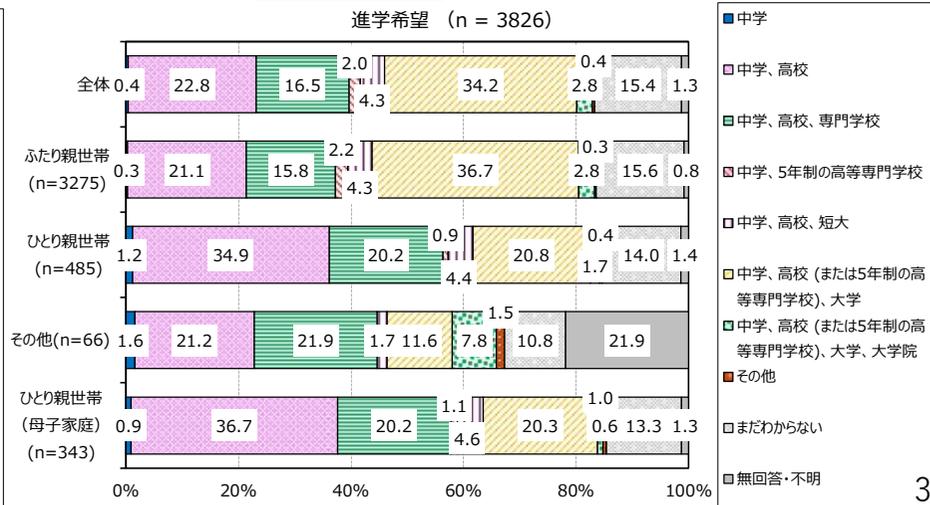
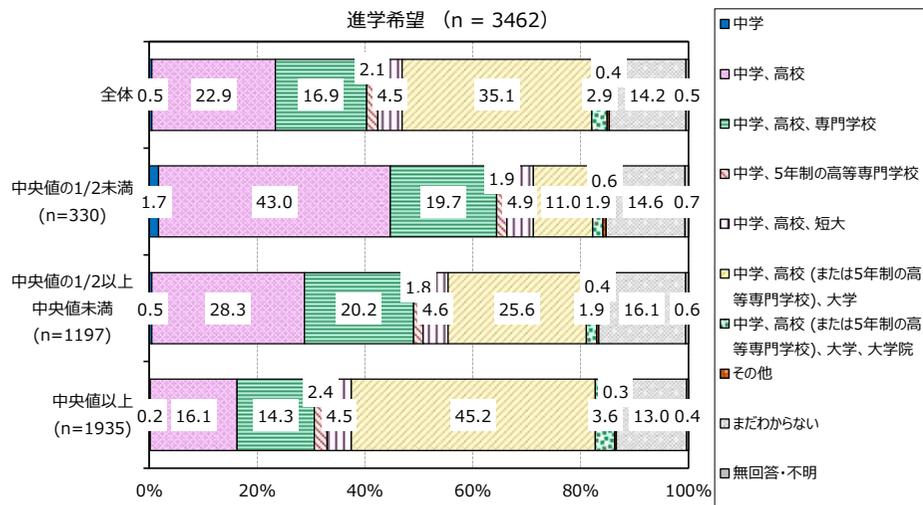
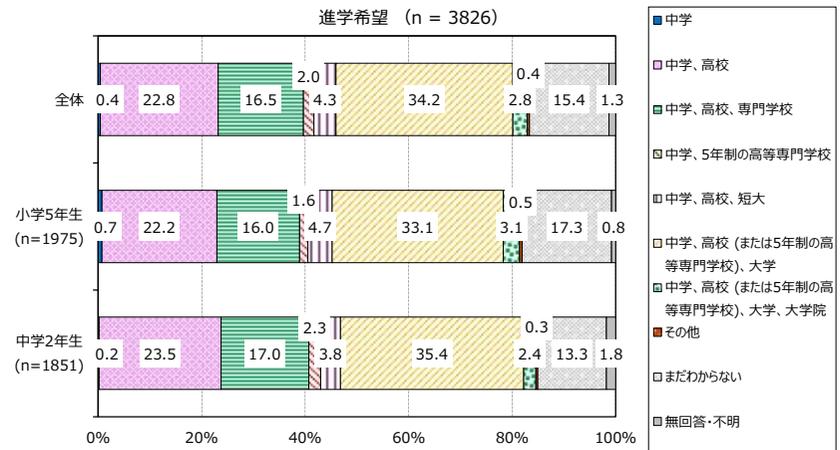
13.進学(子どもの進学の希望)

◆ 進学希望の理由については、等価世帯収入の「中央値の1/2未満」、世帯の状況の「ひとり親世帯」において、「家にお金がないと思うから」、「早く働く必要があるから」の項目での割合が他の層に比べ、多い結果となり、保護者の理由と同様に、家庭の経済的な状況が子どもの進学希望にも影響を与えていると想定される。



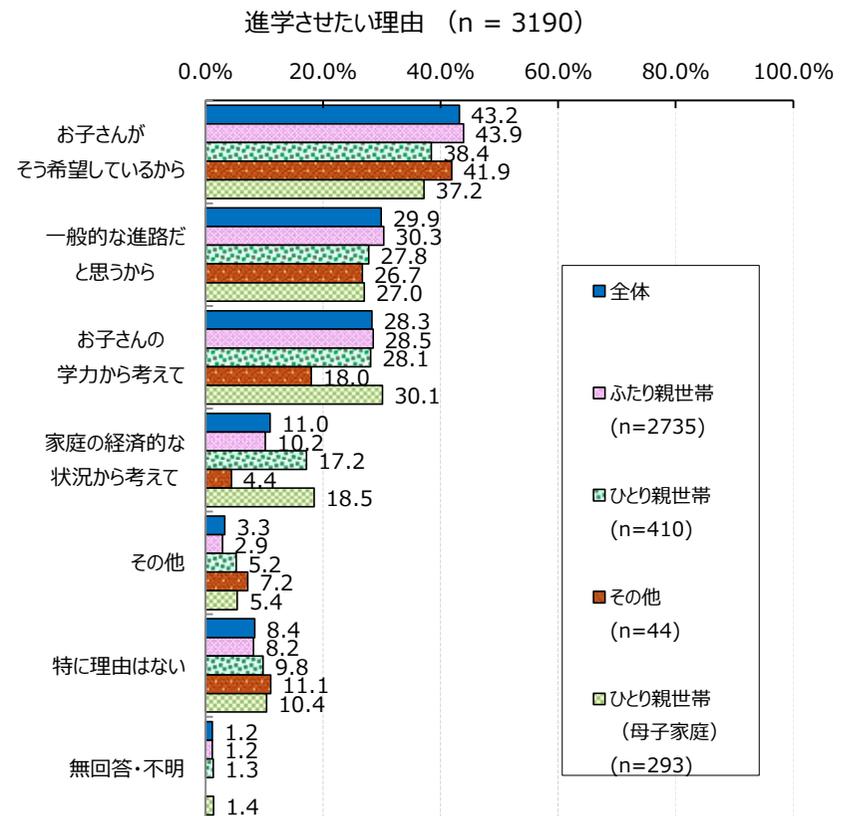
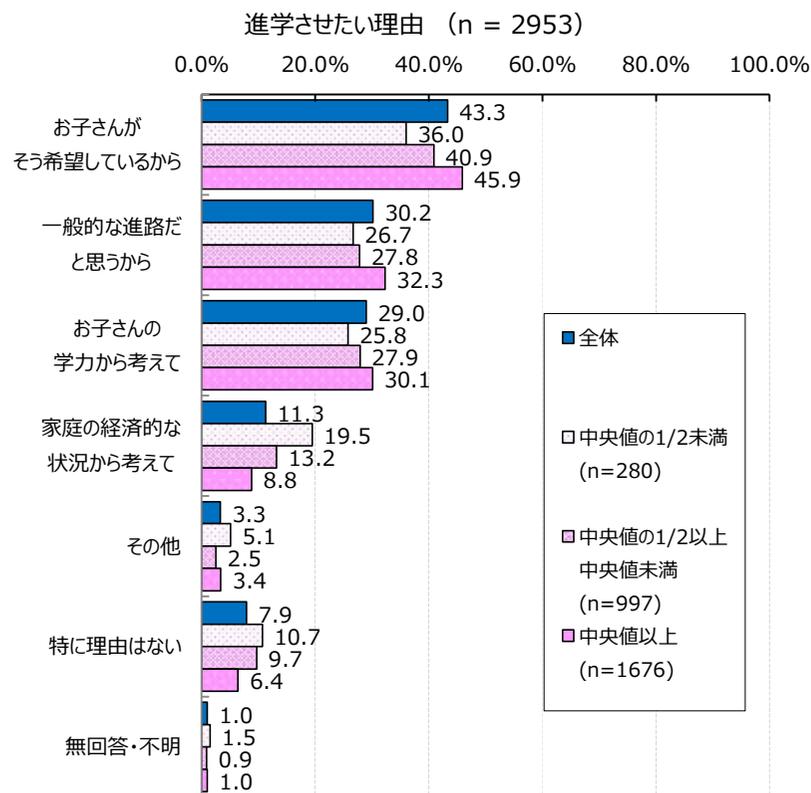
13.進学(保護者が子どもに対する進学期待・展望)

◆ 保護者が子どもに対する進学への期待、展望においては、等価世帯収入が増えるに連れて、「大学まで」の割合が増加し、「高校まで」の割合が減少する傾向がみられた。また、「ひとり親世帯」では「大学まで」が20.8%、「専門学校まで」が20.2%、「高校まで」が34.9%となっており、「ふたり親世帯」に比べて、進学への希望が低い傾向がみられた。



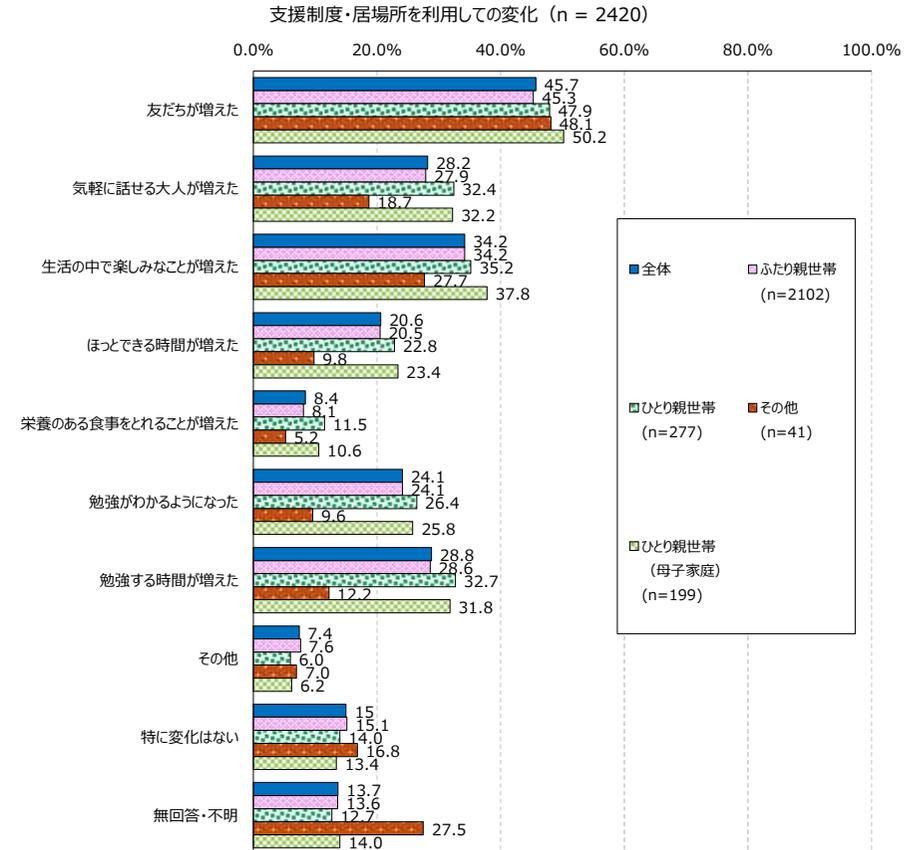
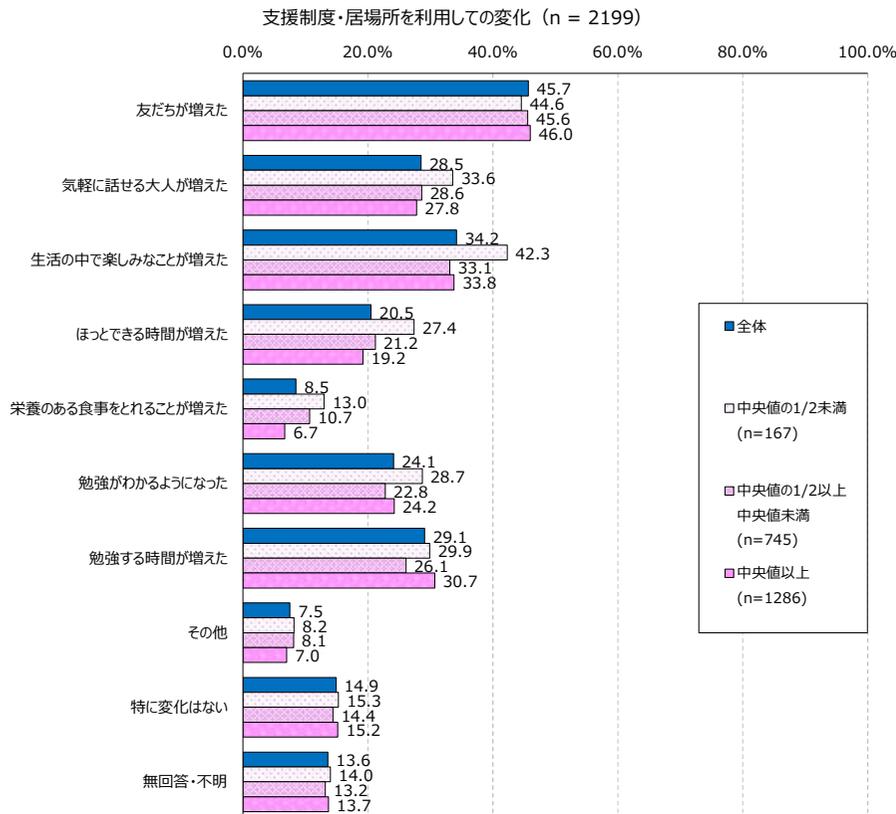
13.進学(保護者が子どもに対する進学期待・展望)

◆ 保護者が子どもに対する進学の段階の希望・展望の理由については、等価世帯収入別の「中央値1/2未満」、世帯の状況別の「ひとり親家庭」(母子家庭も含む)においては、理由として「家庭の経済的な状況を考えて」が15%以上と、経済的な影響がみられた。



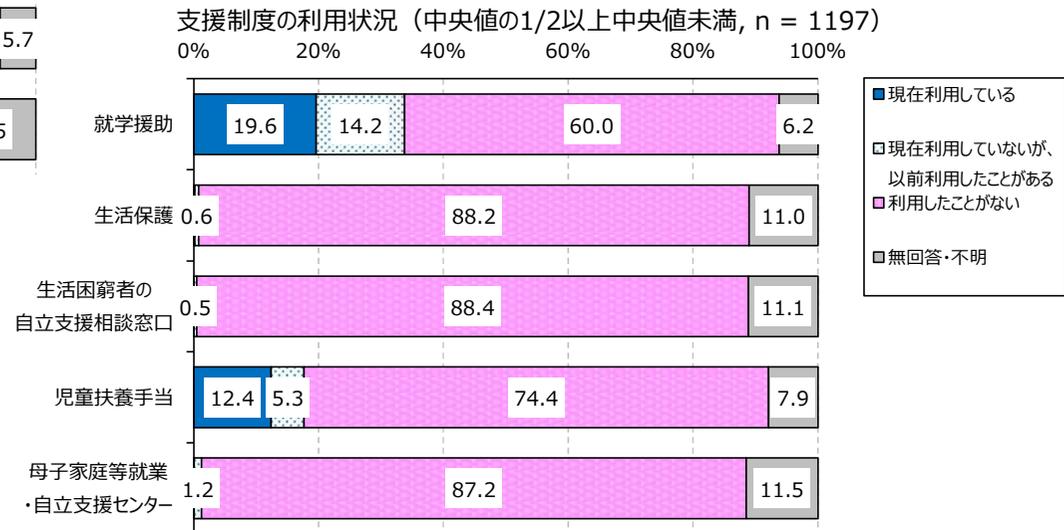
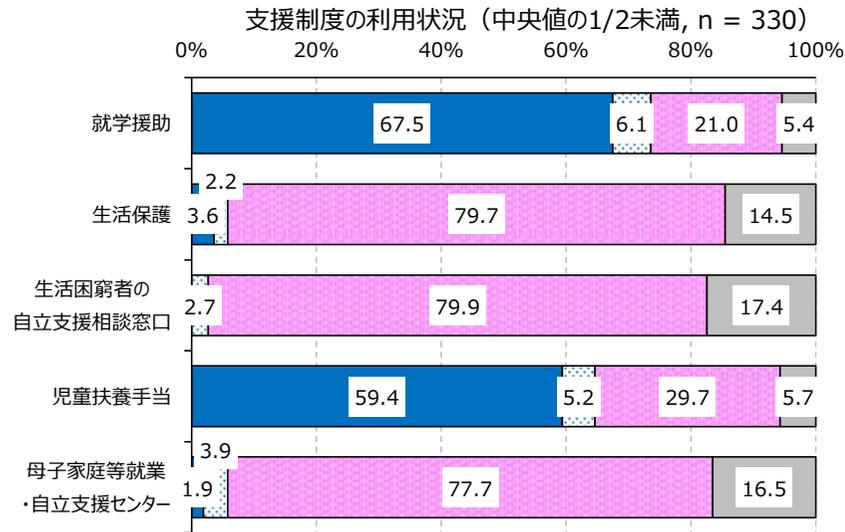
14. 支援制度の利用状況(子どもの支援制度の利用状況)

◆ 子どもが支援制度・居場所を利用したことによる変化として、等価世帯収入別では、多くの項目で「中央値の1/2未満」の割合が他の収入の層よりも多く、支援制度が大きな支援になっていると想定される。
 また、世帯の状況別においても、多くの項目で「ひとり親世帯」もしくは「ひとり親世帯(母子家庭)」の割合が「ふたり親世帯」よりも多く、「ひとり親世帯」の助けにもなっていると考えられる。

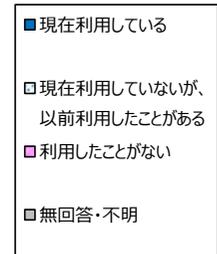
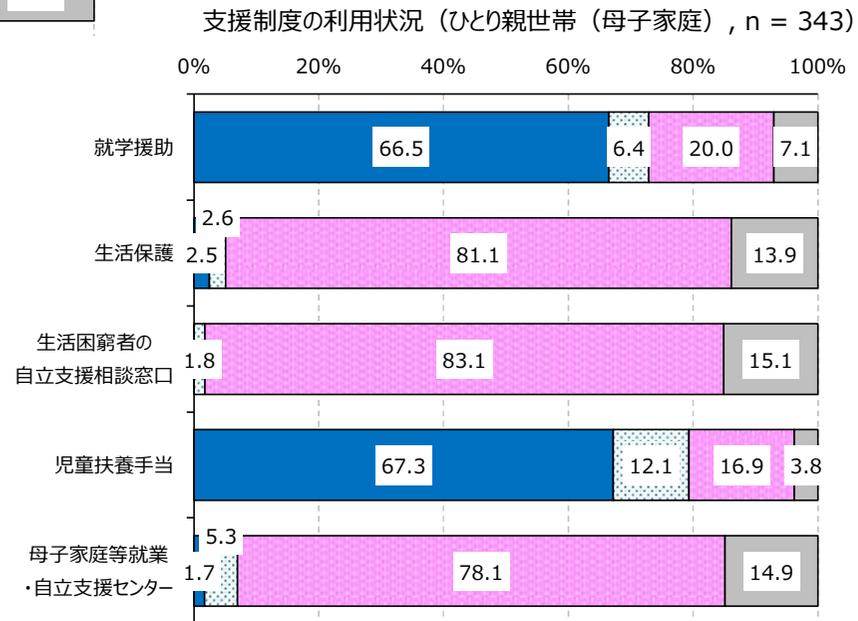
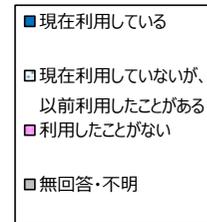
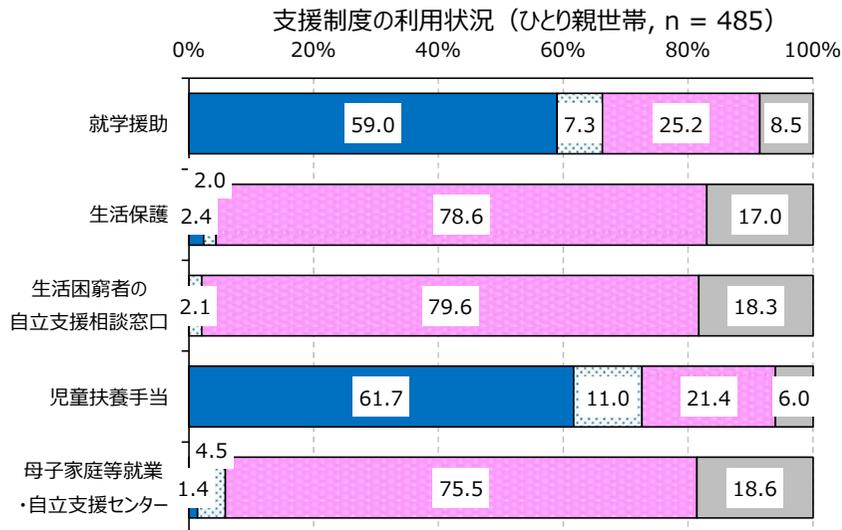


14. 支援制度の利用状況(保護者の支援制度の利用状況)

◆ 保護者の支援制度の利用状況については、等価世帯収入の「中央値未満」（「中央値の1/2未満」と「中央値の1/2以上中央値未満」）と世帯の状況の「ひとり親世帯」において、「就学援助」、「児童扶養手当」で「現在利用している」の割合があり、世帯の一助になっていると考えられる。



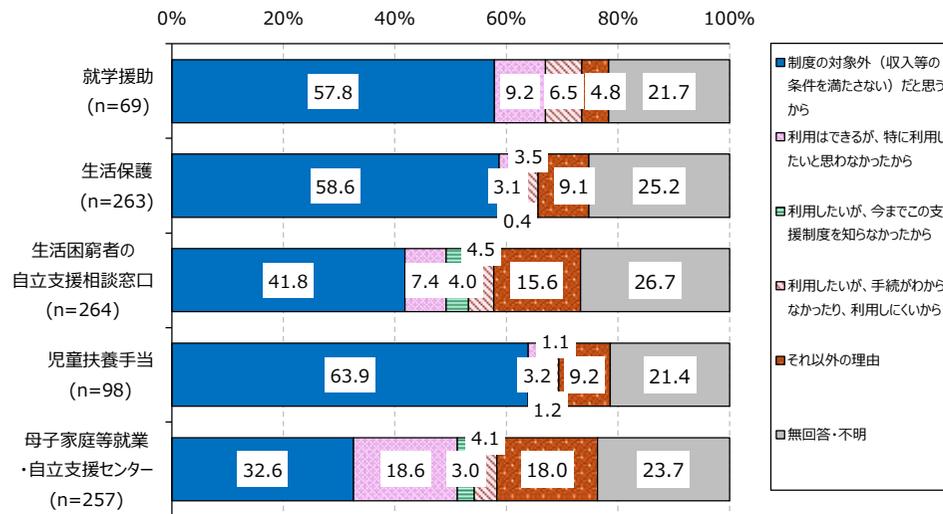
14. 支援制度の利用状況(保護者の支援制度の利用状況)



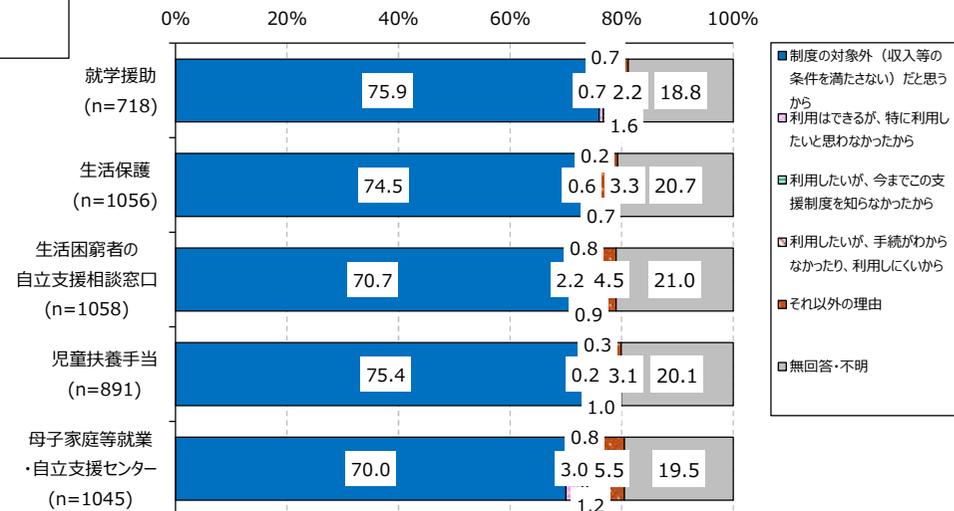
14. 支援制度の利用状況(保護者の支援制度の利用状況)

◆ 保護者が支援制度を利用していない理由としては、等価世帯収入の「中央値未満」（「中央値の1/2未満」と「中央値の1/2以上中央値未満」）と世帯の状況の「ひとり親世帯」において「制度の対象外だと思うから」の割合が高く、対象となる条件の案内の強化が必要と考えられる。

支援制度を利用していない理由（中央値の1/2未満）

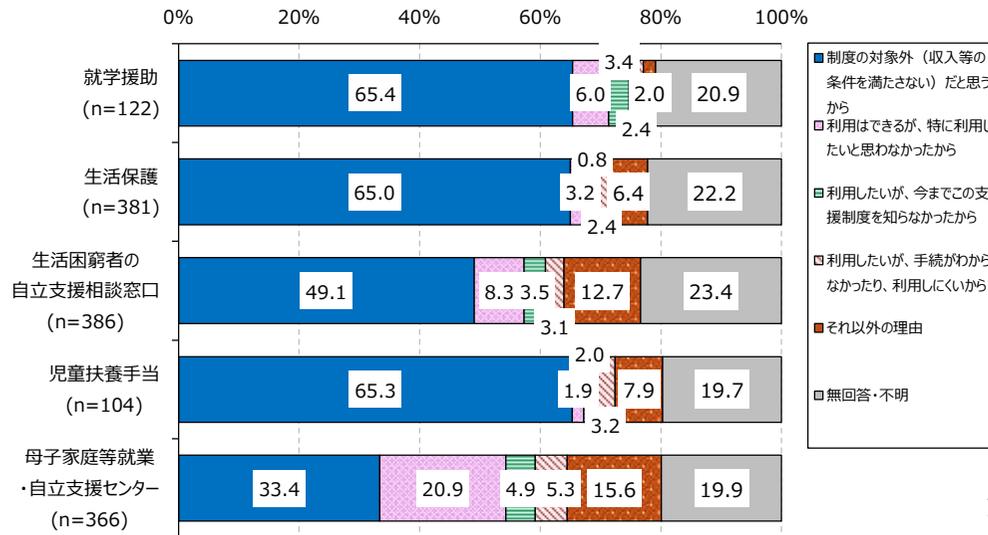


支援制度を利用していない理由（中央値の1/2以上中央値未満）

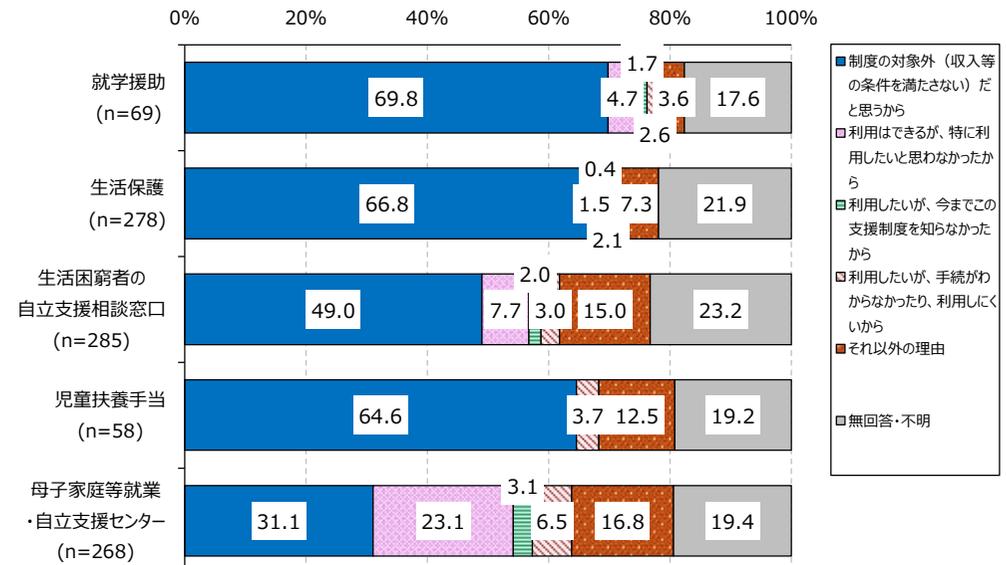


14. 支援制度の利用状況(保護者の支援制度の利用状況)

支援制度を利用していない理由 (ひとり親世帯)



支援制度を利用していない理由 (ひとり親世帯 (母子家庭))



15. 令和元年度調査時との比較①(暮らしの状況)

- ◆ どの層においても、「苦しい、やや苦しい」「大変苦しい」の割合がR元年度からR5年度で減少しており、改善が見られた。

(単位:件、%)

		小学5年生		中学2年生	
		R1	R5	R1	R5
全体	n	1876	1975	1829	1851
	大変ゆとりがある	1.4	1.2	1.4	1.5
	ゆとりがある、ややゆとりがある	5.0	11.2	5.2	10.4
	ふつう	51.1	59.0	46.0	59.7
	苦しい、やや苦しい	31.5	21.7	33.1	20.9
	大変苦しい	9.2	5.7	12.1	5.9
	無回答・不明	1.8	1.1	2.2	1.5
ひとり親 (R1 2世 代、R5 母 子家庭)	n	-	172	-	170
	大変ゆとりがある	0.2	0.3	1.2	0.6
	ゆとりがある、ややゆとりがある	1.9	3.7	2.8	4.4
	ふつう	39.1	50.9	30.8	37.3
	苦しい、やや苦しい	41.4	27.6	39.3	37.6
	大変苦しい	15.2	14.8	22.7	18.8
	無回答・不明	2.3	2.7	3.2	1.2
R1困窮層 vsR5 2つ 該当 ^{※1}	n	167	66	201	59
	大変ゆとりがある	0.7	1.5	0.0	0.0
	ゆとりがある、ややゆとりがある	0.0	1.6	0.0	1.9
	ふつう	4.1	16.1	5.1	15.6
	苦しい、やや苦しい	43.9	38.7	34.9	38.3
	大変苦しい	51.3	42.1	60.1	44.3
	無回答・不明	0.0	0.0	0.0	0.0

※1：食料、衣服、公共料金の未払い経験あり + 等価世帯収入の1/2未満

15. 令和元年度調査時との比較②(食料が買えなかった経験)

- ◆ 全体では「まったくなかった」の割合がR元年度からR5年度で増加しており、改善が見られる。
- ◆ 一方、「ひとり親世帯」、「困窮層」では「まったくなかった」のR元年度からR5年度で割合は減少しており、生活の苦しい状況が見られる。

(単位:件、%)

		小学5年生		中学2年生	
		R1	R5	R1	R5
全体	n	1876	1975	1829	1851
	よくあった	1.6	1.4	2.2	1.7
	ときどきあった	5.0	6.0	4.5	4.4
	まれにあった	10.3	8.8	9.4	9.7
	まったくなかった	81.1	82.3	81.6	82.2
	無回答・不明	1.9	1.5	2.3	2.0
ひとり親 (R1 2世 代、R5 母 子家庭)	n	-	172	-	170
	よくあった	3.5	2.9	6.0	6.7
	ときどきあった	12.8	16.6	10.2	13.4
	まれにあった	15.3	16.7	13.9	20.5
	まったくなかった	66.1	61.4	67.6	58.2
	無回答・不明	2.3	2.4	2.3	1.2
R1困窮層 vsR5 2つ 該当※1	n	167	66	201	59
	よくあった	17.7	16.1	16.3	26.2
	ときどきあった	29.9	51.9	29.5	32.8
	まれにあった	32.2	15.4	24.6	31.9
	まったくなかった	20.1	14.8	29.0	9.1
	無回答・不明	0.0	1.8	0.6	0.0

※1：食料、衣服、公共料金の未払い経験あり＋等価世帯収入の1/2未満

15. 令和元年度調査時との比較③(衣服が買えなかった経験)

- ◆ 全体では「まったくなかった」の割合がR元年度からR5年度で増加しており、改善が見られた。
- ◆ 「困窮層」については「ときどきあった」の割合がR1年度からR5年度で大きく増加する結果となった。

(単位:件、%)

		小学5年生		中学2年生	
		R1	R5	R1	R5
全体	n	1876	1975	1829	1851
	よくあった	2.9	2.3	3.9	2.5
	ときどきあった	5.7	5.7	5.1	4.7
	まれにあった	14.0	10.7	13.6	11.3
	まったくなかった	75.4	79.9	74.8	79.7
	無回答・不明	2.0	1.4	2.5	1.8
ひとり親 (R1 2世 代、R5 母 子家庭)	n	-	172	-	170
	よくあった	8.1	6.6	7.0	9.9
	ときどきあった	13.5	12.9	11.2	10.5
	まれにあった	17.2	18.3	22.9	22.4
	まったくなかった	58.9	59.8	56.1	56.1
	無回答・不明	2.3	2.4	2.8	1.2
R1困窮層 vsR5 2つ 該当※1	n	167	66	201	59
	よくあった	29.1	28.6	31.7	27.7
	ときどきあった	33.9	41.7	29.0	38.8
	まれにあった	23.5	21.2	24.0	18.7
	まったくなかった	13.5	7.0	14.8	14.7
	無回答・不明	0.0	1.6	0.6	0.0

※1：食料、衣服、公共料金の未払い経験あり＋等価世帯収入の1/2未満

15. 令和元年度調査時との比較④(公共料金における未払いの経験)

- ◆ 公共料金の未払いにおいては、「全体」、「ひとり親世帯」においてはR1年度からR5年度で多くの料金で割合が減少しており、改善が見られた。
- ◆ 「困窮層」では多くの料金でR1年度からR5年度で多くの料金で割合が増加している傾向が見られた。

(単位:件、%)

		小学5年生		中学2年生	
		R1	R5	R1	R5
全体	n	1876	1975	1829	1851
	電気料金	3.6	3.8	3.2	2.8
	ガス料金	3.6	2.2	3.1	2.1
	水道料金	4.0	3.5	3.9	2.9
ひとり親 (R1 2世 代、R5 母 子家庭)	n	-	172	-	170
	電気料金	-	8.4	-	9.5
	ガス料金	9.8	8.4	9.3	8.2
	水道料金	10.2	8.8	9.0	7.8
R1困窮層 vsR5 2つ 該当 ^{※1}	n	167	66	201	59
	電気料金	28.2	36.9	20.6	33.4
	ガス料金	30.8	26.6	20.3	27.9
	水道料金	32.4	36.7	25.9	34.8

※1：食料、衣服、公共料金の未払い経験あり + 等価世帯収入の1/2未満

15. 令和元年度調査時との比較⑤ (子どもの学習状況(1日あたりの勉強時間))

- ◆ R1年度では「1時間以上、2時間より少ない」が最も多かったが、R5年度では「30分以上、1時間より少ない」が最も多くなっており、全体的にどの層でも勉強時間が減少している傾向がみられた。
- ◆ 「ひとり親世帯」および「困窮層」については全体と比べ、勉強時間が少ない傾向がみられる。

(単位:件、%)

		小学5年生		中学2年生	
		R1	R5	R1	R5
全体	n	1875	1976	1825	1854
	まったくしない	2.6	2.9	4.9	6.0
	30分より少ない	10.7	18.5	11.2	18.2
	30分以上、1時間より少ない	34.2	44.5	22.2	34.2
	1時間以上、2時間より少ない	36.6	24.2	41.1	28.0
	2時間以上、3時間より少ない	8.9	5.3	14.3	9.2
	3時間以上	3.5	2.7	3.3	2.4
	無回答・不明	3.5	1.8	3.0	1.9
ひとり親 (R1 2世 代、R5 母 子家庭)	n	-	172	-	168
	まったくしない	-	4.8	-	17.9
	30分より少ない	-	23.8	-	20.8
	30分以上、1時間より少ない	-	39.2	-	22.8
	1時間以上、2時間より少ない	-	22.6	-	22.5
	2時間以上、3時間より少ない	-	4.8	-	8.3
	3時間以上	-	1.9	-	2.7
	無回答・不明	-	3.0	-	5.1
R1困窮層 vs R5 2つ 該当 ^{※1}	n	167	66	201	59
	まったくしない	4.7	9.6	8.1	12.1
	30分より少ない	15.8	32.5	15.5	35.2
	30分以上、1時間より少ない	34.1	47.8	22.6	31.2
	1時間以上、2時間より少ない	27.4	6.8	36.7	16.0
	2時間以上、3時間より少ない	7.7	0.0	11.4	1.9
	3時間以上	5.1	1.7	3.2	1.7
	無回答・不明	5.3	1.6	2.4	1.8

※1：食料、衣服、公共料金の未払い経験あり + 等価世帯収入の1/2未満

15.令和元年度調査時との比較⑥(クラスの中での成績)

- ◆ R1年度に比べ、R5年度では小学5年生においては「まん中あたり」、「下のほう」が増加しており、中学2年生では「やや上のほう」、「まん中あたり」、「下のほう」が増える結果となった。
- ◆ 「ひとり親世帯」、「困窮層」では全体に比べ、「やや下のほう」、「下のほう」が増える結果となった。

(単位:件、%)

		小学5年生		中学2年生	
		R1	R5	R1	R5
全体	n	1875	1976	1825	1854
	上のほう	12.8	10.2	14.6	10.0
	やや上のほう	18.5	17.9	15.5	20.2
	まん中あたり	33.2	35.9	27.6	28.7
	やや下のほう	14.7	12.4	19.4	16.5
	下のほう	7.6	9.6	14.8	19.6
	わからない	10.0	12.7	4.6	3.7
	無回答・不明	3.2	1.3	3.4	1.4
ひとり親 (R1 2世 代、R5 母 子家庭)	n	-	172	-	168
	上のほう	9.3	4.9	12.0	7.1
	やや上のほう	11.0	13.2	16.9	12.9
	まん中あたり	28.5	35.7	15.8	22.4
	やや下のほう	21.3	12.2	23.1	21.4
	下のほう	11.7	15.0	21.6	29.9
	わからない	12.6	16.6	6.5	4.4
無回答・不明	5.5	2.4	4.0	1.9	
R1困窮層 vsR5 2つ 該当※1	n	167	66	201	59
	上のほう	7.1	1.6	4.9	3.7
	やや上のほう	10.0	5.7	11.4	7.3
	まん中あたり	27.3	24.6	19.9	19.5
	やや下のほう	23.8	19.2	24.9	20.3
	下のほう	20.5	32.5	30.9	40.3
	わからない	8.1	14.9	4.8	7.2
無回答・不明	3.2	1.6	3.1	1.7	

※1：食料、衣服、公共料金の未払い経験あり＋等価世帯収入の1/2未満

15. 令和元年度調査時との比較⑦(授業の理解状況)

- ◆ 全体で「いつもわかる」「だいたいわかる」を合わせた割合がR1年度に比べ、R5年度の方が減少している傾向であったが、「わからないことが多い」「ほとんどわからない」を合わせた割合も減少しており、わかるとわからないの中間の部分が増加していることが想定される。

(単位:件、%)

		小学5年生		中学2年生	
		R1	R5	R1	R5
全体	n	1875	1976	1825	1854
	いつもわかる	31.5	22.2	18.1	13.9
	だいたいわかる	46.8	47.1	46.8	40.8
	わかるときのほうが多い	10.5	-	13.4	-
	教科によってはわからないことがある	-	25.4	-	37.7
	わからないことが多い	7.3	3.7	14.8	4.7
	ほとんどわからない	0.9	0.7	3.7	1.8
	無回答・不明	2.9	0.9	3.3	1.0
ひとり親 (R1 2世代、R5 母子家庭)	n	-	172	-	168
	いつもわかる	27.7	13.6	16.8	8.3
	だいたいわかる	41.8	48.0	43.2	36.1
	わかるときのほうが多い	13.8	-	10.6	-
	教科によってはわからないことがある	-	27.2	-	44.7
	わからないことが多い	11.4	5.6	16.8	5.4
	ほとんどわからない	1.8	2.5	8.5	4.9
	無回答・不明	3.6	3.1	4.0	0.7
R1困窮層 vsR5 2つ該当 ^{※1}	n	167	66	201	59
	いつもわかる	26.2	5.7	6.6	1.7
	だいたいわかる	40.9	38.2	44.2	34.6
	わかるときのほうが多い	13.1	-	12.3	-
	教科によってはわからないことがある	-	33.3	-	51.2
	わからないことが多い	14.9	13.1	26.5	7.1
	ほとんどわからない	1.6	8.1	7.3	5.3
	無回答・不明	3.2	1.6	3.1	0.0

※1：食料、衣服、公共料金の未払い経験あり + 等価世帯収入の1/2未満

15. 令和元年度調査時との比較⑧ (子どもの日常的な生活状況(朝食の状況))

- ◆ 全体としては「週5日以上」の割合が増加しており、改善傾向にある。一方で、「ひとり親世帯（2世代、母子家庭）」や「困窮層」では、「週1～2日、ほとんど食べない」の割合での大きな改善は見られず、家庭環境や経済状況により、差があると考えられる。

(単位:件、%)

		小学5年生		中学2年生	
		R1	R5	R1	R5
全体	n	1875	1976	1825	1854
	週5日以上	87.1	92.7	85.3	90.0
	週3～4日	4.9	2.4	6.2	3.7
	週1～2日、 ほとんど食べない	4.4	3.6	5.9	5.5
	不明	3.7	1.3	2.6	0.8
ひとり親 (R1 2世 代、R5 母 子家庭)	n	-	172	-	168
	週5日以上	76.4	83.3	76.7	84.1
	週3～4日	9.6	4.7	9.6	4.8
	週1～2日、 ほとんど食べない	9.7	9.1	11.1	11.1
	不明	4.2	2.9	2.6	0.1
R1困窮層 vsR5 2つ 該当※1	n	167	66	201	59
	週5日以上	75.7	75.2	76.2	71.6
	週3～4日	7.0	5.7	7.4	1.4
	週1～2日、 ほとんど食べない	12.5	12.8	14.5	26.6
	不明	4.8	6.3	1.9	0.4

※1：食料、衣服、公共料金の未払い経験あり + 等価世帯収入の1/2未満

15. 令和元年度調査時との比較⑨(進学したいと思う教育段階)

- ◆ 全体では「高校まで」「専門学校、高専、短大まで」がR1と比較して、R5では増加している。
- ◆ ひとり親世代(2世代、母子家庭)や「困窮層」では「大学またはそれ以上」の割合が大きく減少しており、「高校まで」「専門学校、高専、短大まで」の割合が大きく増加していることから、早期の就職を希望していることが想定される。

(単位:件、%)

		小学5年生		中学2年生	
		R1	R5	R1	R5
全体	n	1875	1976	1825	1854
	中学まで	0.9	1.6	0.2	0.1
	高校まで	20.2	22.8	24.6	22.3
	専門学校、高専、短大まで	16.1	19.2	20.1	21.8
	大学またはそれ以上	27.4	24.6	32.9	29.7
	その他	-	0.7	-	0.5
	まだわからない	33.5	29.1	20.3	23.3
	無回答・不明	1.9	2.0	1.9	2.4
ひとり親 (R1 2世 代、R5 母 子家庭)	n	-	172	-	168
	中学まで	1.2	3.2	0.4	0.0
	高校まで	22.6	25.0	30.4	27.4
	専門学校、高専、短大まで	21.2	22.4	14.2	27.2
	大学またはそれ以上	20.7	13.0	27.2	20.9
	その他	-	1.2	-	0.6
	まだわからない	32.4	31.1	23.3	22.7
	無回答・不明	1.8	4.2	4.4	1.2
R1困窮層 vsR5 2つ 該当 ^{※1}	n	167	66	201	59
	中学まで	3.9	5.0	0.1	0.0
	高校まで	30.8	32.1	41.9	29.5
	専門学校、高専、短大まで	13.0	16.4	20.7	35.9
	大学またはそれ以上	17.4	13.3	14.9	4.9
	その他	-	0.0	-	1.6
	まだわからない	32.5	30.0	21.1	27.2
	無回答・不明	2.3	3.1	1.2	0.8

※1: 食料、衣服、公共料金の未払い経験あり + 等価世帯収入の1/2未満